

信 州 大 学

総合健康安全センター一年報

令和元年度（2019年度）

信州大学総合健康安全センター

目 次

・ はじめに	1
・ 総合健康安全センター組織	2
・ 令和元年度（2019年度）総合健康安全センター年間事業・業務等実施状況	3
I 健康管理	
1. 健康診断	
1) 健康診断の実施	4
2) 健康診断事後措置・保健指導	6
2. 健康保持増進対策	
1) 禁煙教室	6
2) 健康増進教室	6
3. メンタルヘルス	
1) 休学・不登校等の学生対応，休職教職員対応	7
2) メンタルヘルス対策	10
4. 過重労働による健康障害防止対策	12
5. 診療・応急措置	12
6. 感染症対策	13
7. 健康教育	
1) 健康科学・理論と実践	13
2) メンタルヘルスに関する教育	15
3) 一次救命講習	19
II 安全衛生	
1. 総括管理	
1) 安全衛生に関する方針・目標・計画の策定と評価	19
2) 学内の実態調査と情報の更新	20
3) 安全衛生管理体制の構築	20
4) 安全衛生委員会及び学生委員会	21
5) ネットワーク構築	21
6) 緊急事態への対応	21
7) 環境活動との連携	21
8) 化学物質リスクアセスメントの実施	22
2. 作業環境管理	
1) 職場巡視	22
2) 作業環境測定	22
3) 薬品管理システム	23
4) ハザードマップの作成	23
3. 作業管理	
1) 学内の実態把握	23
2) 実態に即した効果的な職場巡視の計画・実施	23
3) 日常の自主的管理の支援	24

4) 産業保健スタッフによる研究室の支援	24
4. 健康管理	
1) 過重労働による健康障害防止対策	24
2) 喫煙対策	24
3) ストレスチェック制度	25
5. 安全衛生教育	
1) 産業保健スタッフの技能向上	26
2) 安全教育, 健康教育	26
<資料編>	
資料1 学生定期健康診断結果	27
資料2 学生への生活習慣・自覚症状に関する調査	35
資料3 学生定期健康診断精検結果	44
資料4 平成30年度学生, 院生 留年・休学・退学実態調査結果	45
資料5 施設利用状況	54

はじめに

令和元年10月には台風による千曲川氾濫があり、教職員学生で被害に遭われた方もいらっしゃいました。お見舞い申し上げます。また、年度末には新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい始め、現在まで対応におわれ続けています。

令和元年度、総合健康安全センターでは、平成29年11月に内田講師（兼統括産業医）が転出したのち暫く医師二人体制が続きましたが、平成31年4月に長谷川航平先生が着任されようやく医師3人体制となりました。また、4月末には10年にわたりお勤めいただいた金子稔先生が倉田病院院長にご栄転され、令和の初日に高橋徹先生が後任として御着任されたほか、事務職員の増員や保健師2名の退職に伴う採用もあり、松本地区の陣容は大きく変わりました。

感染症は麻疹、インフルエンザに加え風疹が話題となりました。流行の広がりには備えておりましたが、幸い本学ではインフルエンザの流行も前年よりも小規模で、麻疹患者は発生したものの、予防接種歴があり修飾麻疹であったため大事には至りませんでした。また、接触者全員の予防接種歴が短時間で確認でき日頃の啓蒙活動の成果と安堵しました。しかしながら、学生・教職員に対するワクチン接種勧奨を含めた感染予防だけでなく、「自分が罹患した際に周囲に広めない行動をとる」という社会を構成する一員としての常識が十分に浸透していない事例は未だに散見されます。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い「人にうつさない事」の重要性をより教職員学生に浸透すべく、今後より一層、啓蒙を強化しなければなりません。また、海外からの学生、研究者や信州大学から留学する学生の健康管理についてもグローバル化推進センターと協力した活動が充実してきています。

禁煙推進については、敷地内全面禁煙となり4年目となりました。いずれのキャンパスでも敷地内の禁煙はほぼ達成されつつあります。しかしながら、残念な事にいずれのキャンパスのある市・村の条例で禁止されているポイ捨てがキャンパス周囲で見られます。今後も喫煙者に対する禁煙支援を引き続き行うと共に、喫煙の害とマナーについても引き続き啓蒙を行っています。

教職員に対して取り組んでいる長時間勤務に伴う健康問題、メタボリックシンドロームを中心とした健康管理、職場復帰支援へのニーズは、学生への対応以上に増加しつつあります。教職員の皆様のご協力で裁量労働制教員の勤務時間記録書の提出も定着し、長時間勤務者への面談機会を増やすためにWEB会議システムを利用した遠隔面談も開始しました。ストレスチェックの実施率は伸び悩んでいますが、さらに実施率を上げ産業医会で問題点を共有し、日々の対応へ活かしています。

総合健康安全センターの活動は、学生・教職員の皆様の協力なくしては成り立たちません。引き続き、皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

令和2年5月

信州大学総合健康安全センター
センター長 森田 洋

センター長 森田 洋

教員

教授 森田 洋 (医師 (内科・統括産業医))
講師 高橋 徹 (医師 (精神科))
助教 長谷川航平 (医師 (産業医))
助教 山崎 勇 (臨床心理士)

看護職

松本キャンパス
藤村智子
林 弘子
藤森美里
山口 梓
教育学部
児玉邦代
工学部
正村秀子
農学部
春日奈美
繊維学部
渡邊里菜

カウンセラー (臨床心理士)

松本キャンパス
榛葉清香
金井美保子
行田太樹 (非常勤)
教育学部
大場美奈
宮崎恵美子 (非常勤)
工学部
山崎 勇
野村華子
農学部
下平憲子
繊維学部
山岡俊英

学校医 (非常勤)

松本キャンパス

内科 藤本圭作
内科 城下 智
整形外科 齋藤直人
精神科 金子 稔
皮膚科 山浦麻貴
婦人科 内川順子

教育学部

内科 佐藤俊夫
精神科 竹内博人

工学部

内科 武田 毅
" 小島貴彦
耳鼻咽喉科 谷内山仁
精神科 中澤友昭

農学部

内科 池上 泰
精神科 向山隆志

繊維学部

内科 森 浩二
精神科 遠藤謙二

産業医

松本キャンパス事業場 塚原照臣
松本附属学校園事業場 堀内博志
医学部附属病院事業場 金井信一郎
長野(教育)キャンパス事業場 城下 智
長野附属学校事業場 長谷川航平
長野(工学)キャンパス事業場 長谷川航平
伊那キャンパス事業場 増田雄一
上田キャンパス事業場 森田 洋

事務室

市ノ瀬篤実 (副課長・室長)
諏訪修一 (主査)
會田路子 (主査)
斉京正和
村松綾子

令和元年度(2019年度)総合健康安全センター年間事業・業務等実施状況

月	全学事業・会議・委員会・研修会等	実施日等	各キャンパス事業等	実施日等
4 6	・留学生ガイダンス ・新任教職員研修 ・新入生ガイダンス ・入学式披露 ・講義「健康科学・理論と実践(新入生)」 ・学生相談センター及び学部学生相談室との会議 ・新入生メンタルヘルスクリーニング及び個別面談 ・全国大学保健管理協会関東甲信越地区部会幹事会(北里大学) ・全学安全衛生委員会 ・アレルギー調査	4/1 4/1 4/2~ 4/4 4/8~ 4/~ 4/~ 5/9 5/15 5/~	松本 ・学生健康診断及び有見者呼び出し指導 ・生活習慣・問診表データ集計 ・新入生健康状態調査表・問診票による健康相談 ・全学教育機構相談室の開設 ・尿検査(未検学生) ・禁煙教室(学生・職員) ・職員健康診断 職員・学生特殊健康診断	4/3~ 5/16~6/13毎週木 5/31~ 6/5,12,14,20
			教育 ・2・3・4年生ガイダンス ・大学院1年生ガイダンス ・学生健康診断 ・教育実習事前調査 健康相談及び個別面談(1) ・教育実習連絡会 ・教育実習校の養護教諭との情報交換会 ・課程コース別学生相談室会議出席 ・職員健康診断 職員・学生特殊健康診断	4/1,2 4/2,6,17,18 4/2,6 4/3,4 4/1~ 4/24 4/24 5/17,21,28,29 5/22,24
			工学 ・学部2・3年生ガイダンス ・新入生ガイダンス ・学生健康診断 ・学部生・修士メンタルヘルスクリーニング ・献血 ・長野市保健所健康出前講座(禁煙) ・3年次編入試験教護	4/3 4/4 4/4~5/9 4/4~5/9 5/22 5/27 6/7
			農学 ・2年生ガイダンス(下臨床心理士) ・学生定期健康診断・職員特殊健康診断 ・学生定期健康診断有見者健康相談 ・学生相談室会議出席 ・農学部FD 授業時における緊急対応について(総合健康安全センター 森田センター長)	4/2 4/2,4/3 4/8 ~ 4/10,5/8,6/5 4/22
				6/10
				6/12, 6/18
				6/26
				4/1,2,4 4/3,5/27 4/24 4/25 5/9 5/10 5/28,31,6/27 6/11 6/25
				6/25
				7/10~ 7/21 7/24,31,8/5
				7/6 7/16 9/27
				7/3, 7/8, 8/22 7/10,8/7 7/16
				7/27 9/13 7/17
				7/20,8/21,22 8/21, 22 9/10
				10/4 11/3, 4
				10/2 11/10, 23, 24 11/27 12/9,11 10/2,4 10/11 10/21 11/13 11/16,12/3 12/18 10/2,11/6,12/4 10/15~ 10/28 11/16, 11/18 12/17 11/28 10/2 10/9 11/6 11/16 11/20,29, 12/16
				1/20, 22, 30, 2/5
				1/16, 2/4 1/27,28,29 2/1, 25, 26, 3/12 3/1~ 2/13
				1/8,2/5,3/4 1/16, 19, 1/28, 2/13, 26, 3/12 2/4 3/23 1/23,3/25 1/28, 2/14,25, 3/12,24 2/4

<日常業務>

- (1) 保健管理活動業務
- 診療(内科・整形外科・婦人科・皮膚科・精神科)
 - カウンセリング・健康相談・応急手当
 - 感染症対策
 - 救急箱貸出・健康診断証明書発行・臨時健康診断(体育授業・大会出場関係)
 - 内科医・精神科医・嘱託産業医巡回
 - 健康増進教室

- (2) 安全衛生活動業務
- 勤務時間記録書データ入力及び法定面接指導等対象者の把握
 - 長時間労働対象者に対する産業医面談・医療面談の施行
 - 長期待職者に対する職場復帰プログラムの実践
 - 松本キャンパス安全衛生委員会・安全衛生活動
 - 隔地事業場安全衛生委員会陪席・衛生管理者職場巡回支援
 - 内科医・精神科医・嘱託産業医巡回
 - 労基署各種届出

I 健康管理

心身の健康状態を把握し、健康障害の防止、健康増進を図る。

1. 健康診断

1) 健康診断の実施

教職員、学生の健康状態を把握し、健康障害の防止、健康増進を図る。

(1) 教職員定期健康診断の検査項目

① 法定項目

内科診察、身長、体重、視力及び聴力（1,000ヘルツ及び4,000ヘルツの音に係る聴力）、胸部エックス線検査、血圧の測定、貧血検査（赤血球数、血色素量）、肝機能検査（GOT、GPT、 γ -GTP）、血中脂質検査（LDL-C、HDL-C、中性脂肪）、血糖検査（空腹時血糖又は随時血糖、ヘモグロビンA1c）、尿検査（尿中の糖及び蛋白）、腹囲の測定、心電図検査

② 法定外項目

貧血及び造血器疾患検査（ヘマトクリット、白血球数、血小板、血清鉄）、消化器疾患検査（ペプシノーゲン、ピロリ菌抗体）、ウイルス性肝炎検査（HBs-Ag（定性）及びHCV-Ab（定性））、膵臓疾患検査（アミラーゼ及びCA19-9）腎疾患検査（クレアチニン）、高尿酸血症（尿酸値）、胃検診、前立腺がん検査（PSA）、卵巣がん検査（CA125）及び大腸がん検査（便潜血）

平成30年度における教職員定期健康診断は人間ドック等の受診者を含め、定期健康診断の予定者はほぼ受診した。また、法定外の健診項目を定期健康診断時に受診できる機会を設け、教職員の自主的な健康管理に役立てることができた。

(2) 学生の健康診断について

学校保健安全法に基づき、身長・体重測定、視力測定、聴力検査（会話域）、血圧測定、尿検査、胸部X線検査、内科診察を実施した。**（資料 1）**

今年度より、健康診断時に学生の身体的・精神的な自覚症状傾向を把握するために「問診票」を作成し実施した。併せて、本学学生の生活習慣についてのアンケートも実施した。**（資料 2）**

また、1年生に対し入学時に「新入生健康状態調査票」を提出してもらい、健康状態の把握に努め希望のある学生には健康相談を行った。

① 生活習慣 **（資料 2 生活習慣）**

・喫煙習慣は、学年が上がるに従い喫煙率は上昇している。

松本キャンパスの過去5年間の喫煙率をみると年々減少してきていたが、H31は2.5%となっている。

学部間では、医学科、保健学科はほかの学部比べて少ない傾向にあった。生活習慣のアンケートの中で、禁煙する意志について尋ねたところ、喫煙者の9.0%、禁煙を迷っている人も含めて21.0%という結果だった。

- ・ 飲酒習慣は、学年が上がるに従い飲酒率は上昇し、3年生で75%を超えた。
- ・ 運動習慣は、学年を通してその割合に著しい差は認めず、時々している学生が60%前後、毎日している学生は10%前後だった。男女別にみると、女子の方が運動をしない人の割合が多かった。
- ・ 朝食習慣は、毎日食べている学生は1年生では80%を超えていたが、学年が上がるに従いその割合は低下し、3年生以降では半数以下になった。また、朝食をとらない学生は、男子に多い傾向がある。

② 自覚症状（資料 2 自覚症状）

- ・ 自覚症状の全体集計では肩こり（14.4%）、めまい・立ちくらみ（12.7%）など、身体的愁訴が上位を占めていた。男子学生（5,964名）では、肩こり（11.0%）やめまい・立ちくらみ（9.7%）に続いて、気疲れ（6.2%）、決断力の低下（5.4%）不眠（5.1%）など、精神的愁訴が上位を占めた。また女子学生（2,840名）では、男子学生と比較すると有愁訴の割合が高く、肩こり（21.6%）、めまい・立ちくらみ（19.0%）となっていた。また女子学生では頭痛（9.3%）やむくみ（7.0%）、胃痛腹痛（5.9%）、下痢便秘（5.8%）などの身体的愁訴は男子学生に比べて多かった。
- ・ 学年別に自覚症状を見ると、学年間において著しい差は認めなかった。肩こり、めまい・立ちくらみなどの身体症状や気疲れが上位を占める中で、5年生以上の男子は倦怠感が2位となっていた。また、学部別にみても特に大きな差はなかった。

③ まとめ

- ・ 生活習慣は、入学した直後の1年生時と比較して、学年が上昇するに従い飲酒割合や朝食欠食などが増加することが分かった。この結果を元に、1年生は生活の自己管理ができるように指導すること、また上級生は生活習慣の悪化を抑制するような生活指導を行うことが必要と考えられた。また、喫煙習慣は、1年生ではほとんど喫煙者がいない。一旦喫煙を開始してしまうと辞めることが困難になる為、1年次の「健康科学・理論と実践」で喫煙による影響、体に及ぼす害など喫煙予防について講義をしている。
- ・ 自覚症状は、傾向として全体的に「肩こり」「めまい・立ちくらみ」が上位を占めている。これは近年変わらない傾向にあり、学生の日常生活からみてパソコン・スマートフォンの使用や、運動不足などが関係しているのではないかと考えられる。また、女子学生は例年、有愁訴率が高いことから、窓口対

応などにおいてもより細やかな対応が必要であると思われる。今後はこれらの結果を元に、学生のニーズに応じていくことが必要である。

2) 健康診断事後措置・保健指導

健診結果の有効な活用を行うために事後措置を行う。

健康診断の結果、異常が認められた場合には、個別に診察、再検査、保健指導などの事後指導を実施した。**(資料 3)**

2. 健康保持増進対策

禁煙対策をはじめ、健診結果に基づいた対策を行う。

1) 禁煙教室

平成15年度より21世紀を担う大学生を非喫煙者として社会に送り出すという「大学禁煙化プロジェクト」が始まり、総合健康安全センターでもこのプロジェクトに参加して、禁煙を希望する学生の支援を行ってきた。これは、禁煙を希望する学生に禁煙補助剤（シガノンCQ）を配布、定期的に来所してもらい、禁煙状況を聞きながらサポートを実施した。

令和元年度は、健康診断時のアンケートより禁煙希望の学生、5月の世界禁煙デーに合わせて学生へ禁煙支援のお知らせメールを出し、6名の申込みがあった。

参加理由としては、「健康のため」「学生寮が敷地内全面禁煙のため」ということであったので、禁煙意識をしっかりと持っていた2名の学生は禁煙できていた。

職員に対しては、健康診断の際に喫煙者に対して禁煙を勧めており、禁煙できた職員は4名であった。今後も健康診断の機会を利用し禁煙支援のPRをしていきたい。

2) 健康増進教室

総合健康安全センターでは、平成18年度より運動不足を感じている学生・教職員に対し、運動習慣の確保ならびに肥満予防を目指した運動プログラムを企画している。

平成25年度からは「自分の歩数・活動量を知り、気軽に参加し歩く習慣をつける」を目標に、オムロン社の活動量計を用いた健康増進プログラムを実施している。活動量計は希望者が随時参加できるように各保健室に準備し、健康診断の事後指導にあわせて利用をすすめている。

令和元年度は新たに17名が参加し、活動計利用者は222名となり、現在までに660名が健康教室に参加している。

計器が活動量計であるため、歩数だけでなく日常生活で使う消費カロリーを把握することで、それを消費すべく動くことの意識づけになっているとともに、食

事について考えるよい機会にもなっている。

また体調の変化としても、体重・体脂肪の減少や腰痛・肩こり・便秘・冷え性などの改善がみられ、筋力や体力のアップの自覚がみられている。

昼休みに同僚と声を掛け合い、大学周辺を歩いている、駅からバスを使わずに歩くようにした、大学の中で階段を5階まで昇降しているなど、日常生活の中で無理なく継続できるように工夫している様子が聞かれている。

メタボリックシンドローム以外にも、最近の傾向として学生や教職員の中に痩せていて運動習慣がない人が増えているのでこのような人に対しても積極的に参加してもらえよう今後も継続していきたい。

3. メンタルヘルス

1) 休学・不登校等の学生対応，休職教職員対応

休学・休職の情報収集と分析を行い対応する。教職員については、職帰復場支援プログラムの定着を図る。

(1) 留年，休学，退学調査と対応

① 調査方法

「休学者・不登校学生の情報収集，分析及び指導方法等」については，平成17年11月8日開催の第46回学生委員会において，総合健康安全センターで実態を把握して学生委員会で指導方法等の検討をすることが了承されており，これに基づき学生の留年，休学，退学調査を行った。実際の調査内容は，学部学生については茨城大学から，大学院学生については東京工業大学からの依頼に基づき各学部及び研究科に依頼して作成した平成30年度留年・休学・退学実態調査を，総合健康安全センター事務室でまとめたものである。

② 調査内容

平成30年度における学部学生，大学院生それぞれの留年，休学，退学について，留年は学部等ごとに留年者数，留年率の年度別変遷及び入試区分別データを，休学は学部等ごとに休学者数の年度別変遷，入学年度別，分類群（背景因子）別及び入試区分別データを，退学は学部等ごとに退学者数の年度別変遷，入学年度別，分類群（背景因子）別及び入試区分別データをまとめた。

また，このデータを各学部等に送付するとともに学生委員会で報告し，学部等において学生指導をする際の参考データとして利用されている。

以下にデータのうち平成23年度から令和元年度の年度別留年率，平成30年度の入学年度別休学，退学状況の調査について掲載する。**（資料4）**

<学部学生編>

① 留年について【留年】②

平成23年度から令和元年度の年度別留年率「各年度の在学学生数に対する留年学生数の割合」の各年度の5月1日現在は、平成16年度からの経時的変化では、平成20年度までの留年率は毎年度減少傾向にあったが、21年度、22年度と増加し、23年度、24年度は横ばい、25年度、26年度は減少となり、27年度はやや増加、28年度は大幅に減少したものの、29年度、30年度は再びやや増加となった。令和元年度は横ばいとなっている。

② 休学について【**休学**】②

入学年度別の休学者は、海外留学を含めて留年生が80名と最も多く、次に入学4年目の平成27年度入学者（58名）、28年度入学者（32名）、29年度入学者（24名）、30年度入学者（15名）となっている。また、休学者216名に占める留年生80名の比率は37.0%（前年度36.0%）で、留年生として在学している者に占める休学者の比率は、16.23%（前年度15.07%）と継続して高い傾向にある。

③ 退学について【**退学**】①

平成30年度における退学者は全体で131名（前年度135名・4名減）であった。入学年度別の退学者を見ると留年生が62名で全体の47.3%を占めている（前年度51名（37.7%））。次いで平成30、29、28年度入学者がそれぞれ18名、平成27年度入学者14名などとなっている。また、退学者131名中105名（80.1%）（前年度135名中99名（73.3%））が男子学生で、そのうちの51名（48.5%）が留年生である。

また、在学者全体（留年生含む）に対する退学率は1.46%であったが、このうち留年生の在学者の退学率は12.58%と昨年同様高い傾向にある。

<大学院学生編>

① 留年について

平成23年度から令和元年度の年度別留年率「各年度の在学学生数に対する留年学生数の割合」の各年度の5月1日現在を%で表したものである。

ア 修士課程（博士前期）**修士留年**②

23年度から25年度までは減少し、26年度に増加したが、27年度、28年度と減少し、29年度再び増加した後、30年度に減少に転じ、令和元年度も減少した。研究科別にみると、人文の留年率が23、26、29年度に急激に増加している。経済社会は18年度以降留年率が高かったが23年度に大幅に減少し以降増減して、26年度以降は減少傾向となっていたが、29年度再び増加した後、30年度に減少に転じ、令和元年度も減少した。また、医学系については21年度以降小幅な増減をしていたが、29年度に増加した後、30年度に減少に転じ、令和元年度も減少した。

なお、理工学系研究科が、29年度、30年度に著しく留年率が増加していることは、平成28年4月に理工学系研究科を改組して総合理工学研究科を設置し

たことに伴い、理工学系研究科は、留年生「長期履修生含む」(29年度)若しくは留年生「長期履修生除く(※)」(30年度)が2年の修業年限を超えて在籍している者が多くなったことによるものである。

※従前留年生と見なしていた「最低在学年限超過学生」の内に「長期履修生」が含まれていたため除外の取扱い変更を実施した。

イ 博士課程(博士後期)・専門職 **博士留年②**

留年率の経時的変化では、留年率の高い工学系は、23年度以降は減少傾向にあったが25年度以降は増加の傾向にある。男女別の平均をみると19年度以降男子が女子を上回っていたが、25年度からは女子が男子を上回り、30年度は、女子15.7%、男子13.7%と女子が僅差で男子を上回り、令和元年度は男子12.9%、女子9.5%と男子が女子を上回る結果となった。

なお、医学系研究科と総合工学系研究科が、30年度に留年率が減少していることは、平成30年4月に医学系研究科と総合工学系研究科を改組して総合医理工学研究科を設置したことに伴い、医学系研究科と総合工学系研究科は、留年生「長期履修生含む」(29年度)が留年生「長期履修生除く(※)」(30年度)となり、長期履修生が除かれたことによるものである。

※従前留年生と見なしていた「最低在学年限超過学生」の内に「長期履修生」が含まれていたため除外の取扱い変更を実施した。

② 休学について

平成30年度の入学年度別の休学者は、

ア 修士課程(博士前期) **修士休学②**

入学年度別の休学者数は、海外留学を含めて留年生が18名で休学者全体の40.0%、29年度入学者(留年生を除く者)が19名で休学者全体の42.2%、次いで30年度入学者(留年生を除く者)が3名で休学者全体の6.7%を占めている。留年生としての在学者総数に占める休学率は40.91%(前年度41.67%)と減少している。

イ 博士課程(博士後期)・専門職 **博士休学②**

入学年度別の休学者数は、留年生が25名と最も多く休学者45名に占める割合は55.5%となっており、留年生の休学率は留年生としての在学者数の36.76%と高い。また、研究科別に休学者数をみると、医学系が17名と留年生の休学者全体の68.0%を占めている。

③ 退学について

平成30年度の入学年度退学者は、

ア 修士課程(博士前期) **修士退学①**

平成30年度における退学者は全体で52名(前年度52名)である。男子41名、女子が11名(前年度19名)と女子は減少している。また入学年度別・男女別に見ると、29年度男子17名(留年生除く)、次いで30年度男子10名(留年生除

く)が多くなっている。また、女子は全体で11名(21.1%)となっている。また、過去7年間の退学者数を見ると、24年度以降は減少傾向にあったが、29年度は急激な増加に転じ、30年度は横ばいとなっている。

イ 博士課程(博士後期)・専門職 **博士退学①**

平成30年度における退学者数は全体で59名(前年度60名)であったが、男子が45名(76.2%)と多い。また入学年度別・男女別に見ると、27年度男子22名(留年生除く)が最も多い。また、研究科別にみると、医学系が男子女子合わせて34名と休学者全体(留年生含む)の57.6%を占めている。なお、過去7年間の退学者数を見ると24年度から28年度までほぼ横ばいの状況であったが、29年度は急激な増加に転じ、30年度は横ばいとなっている。

(2) 信州大学職場復帰支援プログラムの実施

法人化後に開始した「信州大学職場復帰支援プログラム」は職員に浸透し早期から産業医が復職に関わる体制が確立している。1ヵ月以上病気休業した後に復職する場合には職場復帰支援プログラムを利用して、円滑な職場復帰の支援を行っている。令和元年度は、11名(うち新規4名)が支援プログラムの対象となっている(そのほか、上司、人事、家族、主治医、学内医療職等との面談による対応も多数)。前年度から継続していた者の多くは円滑に職場復帰を果たしている。1ヵ月以上の療養を要する診断書が提出されると、職場等から総合健康安全センターに連絡が入り、復帰支援プログラムの第1ステップに則り病気休暇当初からの支援を開始している。このことは、原因は何か、職場に関連した問題が病状に影響を与えていないか否か、病気休暇早期の段階で鑑別することを可能とする。もしも職場に関連した問題が病状に影響を与えている場合には、良質の自宅療養、早期の疾病の改善の実現のために、できる限り早急に対応することとしている。その場合、本人面談のほか、主治医からの情報提供、上司、人事部門、家族等と連携し、病気休暇が長期化しないように努めている。

また、病休に入る前に本人あるいは職場上司、人事部門から相談を受け、産業医から医療機関への受診や休職を促すケースも増えている。

2) メンタルヘルス対策

カウンセリング体制を整備、充実しつつ、学生および教職員の心の健康管理を行う。学生相談センターと連携、協働して全学の精神保健状況の実態把握に努め、課題を把握し、対策を検討し、対応を図る。

学生のメンタルヘルス対策については、当センター精神科医および臨床心理士が、学生相談センター所属の臨床心理士や各キャンパスの保健師・看護職、各学部学生相談員、担当教職員と連携、協働して取り組んでいる。全てのキャンパス・学部に臨床心理士が常駐する体制によって、緻密で円滑な連携が可能となっている。

教職員のメンタルヘルス対策については、各部署担当の産業医を中心に適宜当センターの精神科医、産業医、臨床心理士が連携し対応している。

令和元年度は精神科医、臨床心理士合わせて全学で延べ5,627名の学生メンタルヘルス相談と延べ214名の職員メンタルヘルス相談が行われた。

個別カウンセリングや心理検査、精神医学的対応のほか、学内外関係部署との連携も適宜行い、学生や教職員に対して最善の支援が行われるよう努めている。また、新入生全員に対して、メンタルヘルスチェックを入学時の段階で実施し、必要がある者については呼び出し面接を実施している。

(1) 各学部相談室にかかる活動

全学部において、各学部学生相談室に担当カウンセラーと保健師・看護職が構成メンバーに加わり、学部の相談委員や教職員と協働連携をはかりながら相談室の運営に携わっている。具体的には、相談活動に関するコンサルテーション、相談室主催の企画に関する助言・提案、学生対応の指針作成、チューター面談の補助、FD・SD、支援会議など各学部の特色やニーズに応じた活動を行っている。

(2) 教育学部附属学校園スクールカウンセリング

教育学部附属6校園（長野3校・松本3校園）を対象にスクールカウンセリングを行っている。長野地区、松本地区それぞれ週1日を各校の実情にあわせて時間配分を行い対応している。児童生徒の個別カウンセリングや保護者との個別面談の他、児童生徒・園児の行動観察、教師とのコンサルテーション、チーム支援会議への出席などを行っている。また必要に応じて児童相談所、保健センター、医療機関など学外関係機関との連携も行い、児童生徒・園児へのよりよい支援体制の整備にも努めている。

(3) カウンセラー間の協働・連携

・カウンセラーミーティング

カウンセラーの技術向上や情報共有のため、当センターと学生相談センター所属の臨床心理士合同によるミーティングを計8回（令和元年5月27日、6月17日、7月22日、9月30日、11月11日、12月9日、令和2年1月20日、2月17日）（令和2年3月23日の予定回は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止）行った。ハイリスク事例の情報共有や対応の検討、発表者持ち回りの事例検討、各学部の状況報告などがその内容である。本会は日本臨床心理士資格認定協会が認める研修会として認定を受けている。

・カウンセラーの集い

当センター所属の常勤、非常勤臨床心理士と、学生相談センター所属の臨床心理

士が集まり、情報交換や必要事項の検討を行った。

令和元年8月19日（月） 13:30～16:00

（令和2年3月23日の予定回は、新型コロナ感染対策のため中止）

出席者：臨床心理士（常勤，非常勤），総合健康安全センター助教，学生相談コーディネーター，障害学生支援室長，総合健康安全センター講師，総合健康安全センター長

4. 過重労働による健康障害防止対策

平成18年度に労働安全衛生法が改正され、信州大学では「過重労働からの健康障害を防ぐための指針」を作成し教職員に対する過重労働対策に積極的に取り組んできている。

裁量労働制の教員は、毎月勤務時間記録書を提出し、裁量労働制以外の職員は勤務時間業務処理システムに入力している。裁量労働制の場合、1カ月の労働時間が、その月の勤務日数に7.75時間に乗じて得た数値に100時間を加算した時間を超え、かつ疲労の蓄積が認められ、本人の申出がある場合に面談を実施している。裁量労働制以外の場合、1カ月の時間外の労働時間が45時間を超え、かつ、疲労の蓄積が認められ、本人の申出がある場合に面談を実施している。過重労働（裁量労働制の教員で時間外労働が100時間超もしくは3ヶ月連続80時間超、裁量労働制以外の職員で時間外労働が60時間超）のみられた教職員に対しては総合健康安全センターから通知し、疲労度チェックを行って頂き健康状態の把握に努めている。また、本人の申出がなくとも、健診の結果及び当センターへの受診や相談の状況及び職場からの意見を考慮し産業医面談を積極的に行い、専門医の受診、治療専念を進言している。

裁量労働制教員の勤務時間記録書の提出の徹底は前年までの大きな課題であったが、本年度は全学でほぼ100%を達成することができた。また、各事業場（キャンパス）の安全衛生員会でも長時間労働についての議論が充実してきており、昨年度よりも長時間勤務者は減少してきている。また、産業医面談の機会を増やすために、今年度から松本事業場では産業医4名による面談枠を設け、また他事業場については産業医訪問時の面談に加えてGoogle meetを利用した遠隔面談を開始することで、面談枠を増やして対応した。

そのほか、看護職の段階での連絡、確認、相談によるフォローアップも充実しており、医師が非常勤である事業場での健康管理は円滑に行われている。

令和元年度以降も、法改正に準拠し、過重労働による健康障害の防止を念頭に置き、情報通信機器を用いた遠隔産業医面談を採り入れるなど、労働災害の予防および現場の要望に応じた取り組みを実施していく予定である。

5. 診察・応急措置

病気や怪我の措置に当たる。

診察は、内科、精神科、整形外科、耳鼻科咽喉科、皮膚科、婦人科について、当センター医師、学校医が行い、日常業務は看護職が対応している。また、カウンセラーによる相談も実施している。(施設利用状況 学生・職員) (資料 5)

6. 感染症対策

さまざまな感染症の発生に対して健康危機管理として対応を行っている。平成30年度は、本学における通常業務を超えて新たに対応すべき感染症は発生しなかったが、麻疹の注意喚起を学生・教職員にメールを通じて行った。また、インフルエンザの感染予防、感染拡大防止については、健康科学の講義に取り入れるだけでなく、医学部附属病院感染制御室の協力を得てイントラネット (ACSU) に対策を掲載した。

新型コロナウイルス感染症に対しては、文部科学省からの通達などが発出される前の1月15日から対応・情報発信を開始した。1月末までには、海外滞在者の全例把握、湖北省等からの入国者の入構規制 (2週間の自宅待機要請)、総合健康安全センターの備蓄マスクを放出すると共に、消毒用アルコールやマスクの確保を開始した。また、診断の有無にかかわらず有症状者を公欠とする対応を依頼し整備した。その後、2月19日には全学対策本部が設置され、以後の対策は大学全体として行う体制が確立した。

7. 健康教育

1) 健康科学・理論と実践

平成22年度までは「キャンパスライフと健康」として行ってきた保健体育の講義は、平成23年度から体育実技が取り入れられるようになり、「健康科学・理論と実践」として再再編成され、総合健康安全センターは、講義を「理論」として担当し、1年を通して開講されることになった。新入生全員を対象に健康増進、生活習慣病を防ぐ、メンタルヘルス、ライフスキルアップ、危険薬物に対する注意、性の健康について知識の習得を図る目的で、学期を前半、後半にわけて各クラス100人前後の20クラスの学生に対して、計7回の講義を行い、全学教育機構の体育担当教員が8回実技を行った。昨年度まで、2回は医学部等の教員に依頼して各担当教員の専門とする分野についての講義をお願いしていたため、コースにより内容は大きく異なっていた。一方、個人の健康という側面だけでなく、社会全体の問題、ダイバーシティと健康といったアプローチへのニーズも高まっている。そこで、昨年度一部学生に対して山崎助教が担当した「障害について」の講義を拡充し、全員を対象に「ダイバーシティと障害」の講義を行った。また、森田が松本市と協力し「認知症サポーター養成講座」も健康科学理論の中で開講した。本年度は10クラスを対象に開始し、次年度からは一年生全員を対象とする予定である。この試みはNHKイブニング信州など

でも取り上げられた。

(1) 授業のねらい

健康科学・理論は、受講者が学生時代はもとより生涯に渡って心身の健康の維持増進について正しい認識と習慣を得ることを目的とする。

(2) 授業の概要

健康は個人、社会、地球環境にまたがる大きな課題である。こうした観点から、この科目は心身の健康、キャンパスにおける安全、社会における望ましい人間関係、環境と健康、などについての知識と行動規範の修得を目標とし7回の講義をおこなった。

① イントロダクション、健康なキャンパスライフのために (担当 森田)

本講義開設の主旨、概要、受講に関する注意事項を解説したのち、健康なキャンパスライフを過ごすためのフィジカルヘルス (肉体的な健康) について、食生活、睡眠、禁煙、アルコールの害 (アルコールハラスメント対策を含む)、感染予防 (麻疹、結核、インフルエンザ、ノロウイルス) について解説した。また、学生支援課の協力で講義中にアルコールパッチテストを全新生生に行った。アルコールハラスメント、急性アルコール中毒の防止に役立つと期待される。

② メンタルヘルス概論 (担当 金子, 高橋)

青年期は人生において最も心が激しく揺れ動く時期であり、誰でも心の健康を損なう可能性があるが、そのことを理解している者は少ない。心の健康を維持するために、学生が注意すべきことは何か、また、心の健康を害したときに、どのように対処すべきかについて、主として大学生によくみられる心の病気を取り上げて解説した。

③ ライフスキルアップ (担当 臨床心理士)

センターカウンセラーが担当した。社会に適応していくために、大学においてもライフスキル (社会人基礎力) の向上を図ることが求められている。この授業では、対人コミュニケーションに焦点をあてた講義・演習を通して、ともに学び働くために必要な仲間との関係を構築・維持するためのコツを学ぶようにした。大学でも、さらに卒業後にも通用する対人コミュニケーションの体得へ向けた第一歩となることを期待している。

④ 健康を守る (担当 医学部教員)

キャンパスライフのみならず生涯を通して健康的な生活を維持するためには、スポーツなどで積極的に健康増進に努めることも重要であるが、健康を損なう状況をいかに回避するか学ぶことも必要である。AIDS、性感染症は潜行しながらも若者の間で急速に拡大してきているが、その実態、予防方法についても理解するようにした。また、成人の死因の大半を占める悪性腫瘍、脳血管障害、心筋梗塞

などは、生活習慣病といわれる肥満、高血圧、糖尿病や生活習慣に起因する大量飲酒、喫煙が深く関係している。生涯にわたり健康を維持するためには、これらの生活習慣病を予防もしくは生活習慣に注意を払う必要があり、個々のテーマについて解説した。

⑤ ダイバーシティと障害（担当 山崎）

障害に対する理解を深め偏見なく対応するために必要な基礎的知識、姿勢を身につける事を主眼に講義を行った。

⑥ 薬物乱用を防ぐ、海外渡航時に注意すべき感染症（担当 森田）

大麻等違法薬物が学生に蔓延してきている。興味本位で違法薬物に手を出してしまうことが多いが、市販薬・抗菌薬の乱用の害も増加している。これらの薬物乱用を広く扱い、社会的、健康的両面からの問題を理解し、正しく対処する事の意義を理解するようにした。

また、大学として海外留学を推進するなかで、海外特有の健康問題についての理解を深める重要性が増している。昨年後期から講義内容を改め、海外渡航時に注意すべき感染症に対する予防法危険を事前に予知する事の重要性、その情報を収集する手段についての情報提供、自己管理の動機付けを行った。

⑦ 認知症サポーター養成講座

認知症サポーター養成講座は厚生労働省が推進する認知症サポーターキャラバン事業「キャラバン・メイト養成研修」を修了したものが、講師となることが出来る。サポーター養成講座を受講した者にはオレンジリングが全国キャラバン・メイト連絡協議会から配布される。森田は松本市の開催するキャラバン・メイト養成研修にも協力し、行政が開催主体である認知症サポーター養成講座を信州大学生を対象に講義の一環として開催する体制を整えた。

⑧ 性感染症予防、性の健康（ビデオ講義 保健学科金井教授、山崎講師）

本年ビデオを再収録し、内容をさらに充実した。

（山崎）性の健康について正しく理解するための知識を習得し、またパートナーとの関連性も含め、性被害に遭わないために知っておくこと、実践すべき事などを理解するようにした。（金井）先進諸国のなかで日本ではHIVなど性感染症に罹患する若者が増えている。クラミジア感染症は自覚症状が乏しいが、女性の不妊の要因となりうる。性感染症の概要、予防について解説した。妊娠、性被害など性の健康について解説した。

2) メンタルヘルスに関する教育

FD・SD等を通じて、学生相談担当教職員の技能向上を図る。また、学生、教職員が、セルフケア、ラインによるケアができるよう教育を行う。

FD・SD、学生向けガイダンス、ワークショップ等を下記の日時で行った。

(1) FD・SD

・メンタルヘルス講演会

第三世代の認知行動療法として登場した「マインドフルネス認知療法」は、心理療法・精神療法の世界のみならず、多数の企業が瞑想をとり入れた研修会を開くなど、広く社会からの関心が寄せられたサイコセラピーである。「マインドフルネス」とは、「今この瞬間の体験に意図的に意識を向け、評価せずにとらわれない状態で、ただ観ること」といった定義がなされているが、根幹にある概念を理解することは難しい。マインドフルネス療法を実施している精神科病院に勤務され、認知療法にも詳しい杉浦琢先生をお招きし、講演会を開催した。

抽象的な概念を映像で解説する講演内容はとても斬新であり、「有意義な講演であった」「大変参考になった」と好評な感想が多く寄せられた。

演 題: 「マインドフルネス認知療法」

～『遊びをせんとや生まれけむ』 ストレスマネジメントのコツ ～

講 師: 医療法人桜桂会犬山病院

副院長 杉浦 琢 先生

日 時: 令和元年8月5日 (月) 15:00～16:30

場 所: 【主会場】 信州大学松本キャンパス 旭会館3階 大会議室

【SUNSにて各キャンパス配信】

長野 (教育), 長野 (工学), 伊那, 上田 各キャンパスSUNS会議室

・人文学部FD

演 題: 学生対応のためのこころの理解

講 師: 榛葉カウンセラー

日 時: 令和元年9月24日 13:30～14:00

場 所: 人文学部会議室

・農学部FD

演 題: 農学部における学生相談の利用状況と思春期・青年期の特徴について

講 師: 下平カウンセラー

日 時: 令和元年7月16日 13:00～14:30

場 所: 農学部大会議室

・繊維学部 教員会議での講和

演 題: 「学生の対応について」

(「教職員のための学生サポートガイドブック第3版」の周知と解説)

講 師: 山岡カウンセラー

日 時:平成31年4月25日 15:00～15:15

場 所:繊維学部大会議室

・安全衛生FD講演会

農学部FD

演 題:アナフィラキシー, 海外渡航, 薬品事故, 働き改革への対応

講 師:森田洋教授

日 時:平成31年4月22日 13:00～14:00

場 所:農学部大会議室

教育学部FD

演 題:ワークエンゲージメントと健康経営

講 師:森田洋教授

日 時:令和元年10月2日 15:00～15:30

場 所:教育学部大会議室

工学部FD

演 題:感染症対策

講 師:森田洋教授

日 時:令和元年10月21日 15:30～16:00

場 所:信州科学技術総合振興センター (SASTec) 3階 会議室

・学生委員会担当教職員研修会FD

演 題:発達障害について

講 師:高橋徹講師

日 時:令和元年6月13日 15:15～17:15

場 所:東筑摩郡生坂村営「やまなみ荘」会議室

(2) 新入生・在学生等ガイダンス

<松本キャンパス>

・新入生ゼミナール「こころの健康」

平成31年4月8日	理学部	理学科生物学コース	金井カウンセラー
平成31年4月10日	工学部	建築学科	金子講師
平成31年4月11日	理学部	理学科物理学コース	山岡カウンセラー
平成31年4月16日	工学部	機械システム工学科	山崎助教
	農学部	農学生命科学科	下平カウンセラー

平成31年4月24日	工学部	物質化学科	野村カウンセラー
	繊維学部	先進繊維・感性工学科	山岡カウンセラー
	繊維学部	化学・材料学科	山岡カウンセラー
	繊維学部	応用生物科学科	山岡カウンセラー
令和元年5月8日	工学部	水環境・土木工学科	野村カウンセラー
	繊維学部	機械・ロボット学科	野村カウンセラー
令和元年5月9日	人文学部	人文学科	榛葉カウンセラー
令和元年5月13日	医学部	医学科	高橋講師
令和元年5月21日	工学部	電気情報システム工学科	山崎助教

<教育キャンパス>

平成31年4月1日	教育学部	学年別ガイダンス (3年・4年)
平成31年4月1日	教育学部	教育実習 I・II ガイダンス (3年・4年)
平成31年4月2日	教育学部	学年別ガイダンス (2年)
平成31年4月2日	教育学研究科	大学院ガイダンス
平成31年4月10日	教育学部	教育実習 I 事前指導
平成31年4月24日	教育学部	第一回教育実習連絡会
令和元年7月10日	教育学部	教育実習 I 事前指導
令和元年11月27日	教育学部	第二回教育実習連絡会

<工学キャンパス>

平成31年4月3日	工学部	2年生全体ガイダンス, 3年生全体ガイダンス
平成31年4月4日	工学部	新入生学部全体ガイダンス・保護者ガイダンス

<伊那キャンパス>

令和元年4月2日	農学部	2年生ガイダンス
----------	-----	----------

<上田キャンパス>

平成31年4月3日	繊維学部	学年別ガイダンス (2~4年生, 大学院生)
令和元年5月27日	繊維学部	留学生ガイダンス
	カウンセラー	講話 山岡カウンセラー
		内容: 学生生活上のストレスと対処法, 各種相談窓口の紹介

(3) 学生向け講演会・ワークショップ

- ・保健学科新入生合宿研修
- 演 題: 自分発見のために
- 講 師: 榛葉カウンセラー

日 時:平成31年4月20日 13:45～14:30

場 所:国立妙高青少年自然の家

<伊那キャンパス>

・ココロとカラダの健康講座 第1回

演 題:「メンタルヘルス概論」

日 時:令和元年6月10日 14:40-16:10

講 師:高橋徹講師

3) 一次救命講習

AEDの設置に伴い、一次救命措置が行えるようにする。

平成23年度より従来松本キャンパスの学生及び教職員を対象としていたものを、医学部附属病院を除く全学の学生及び教職員に対象を拡大して実施している。松本キャンパスでは松本広域消防局丸の内消防署の指導のもと、例年2回の講習会を開催しており、令和元年度は学生、特に運動系課外活動団体への受講を促すため、従来に加えて学友会スポーツ・文化部会委員会においても周知を行った。

令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け1回の開催にとどまったが、11名が受講し普通救命講習修了証が交付された。

II 安全衛生

1. 総括管理

教職員と学生の安全衛生管理体制に関する基盤を確立する。

1) 安全衛生に関する方針・目標・計画の策定と評価

学内の実態を反映させ、活動の方針・目標・計画を作成し、定期的に評価、見直しを行う。その中で、労働安全衛生マネジメントの導入を図る。

(1) 安全衛生に関する基本方針

基本理念

信州大学は、本学の教職員・学生の安全と心身の健康を守り、快適で健全な就業・修学環境を確保するため、積極的かつ継続的に安全衛生活動と健康づくりに取り組みます。また、安全衛生に対する意識と環境マインドを併せもつ人材を育成し、地域社会及び国際社会に貢献することを目指します。

基本方針

- 教職員・学生のための健康維持・増進活動を積極的に支援します。
- 教職員・学生の健康安全を守り、良好に保持するため、教育研究環境の継続的な改善に努めます。
- 法令を遵守し、高い倫理観をもって、安全衛生活動を推進します。
- 豊かな環境マインドを醸成しつつ、安全衛生意識の向上に努めます。

(2) 安全衛生活動の年間計画

全キャンパスの年間活動案について、信州大学安全衛生委員会に提示、これをもとにして各キャンパスでも年間計画が策定された。

2) 学内の実態調査と情報の更新

学内の実態調査及び把握を行うことで実態に見合った活動を計画する。実態調査は定期的に行い、更新する。

学内の実態については、日常の診療、健康相談、労働衛生相談、労働災害報告、過重労働面談、職場巡視結果等から、知ることができる。これらの実態把握から見られる傾向をもとに、組織または個人への安全面や衛生面に関する対応を行っている。組織的な対応が必要な場合は、安全衛生委員会、学生委員会及び学生相談委員会を通じて周知を行っている。

3) 安全衛生管理体制の構築

管理体制の構築と再点検、産業保健スタッフの養成と支援を行う。研究室単位の自主管理体制の支援を行う。

(1) 産業医と衛生管理者の養成

法定の週1回の職場巡視に対応するため、法人化後平成22年度まで衛生管理者を養成し、現在は年1回衛生管理者・安全管理者に対する研修を実施している。

また、現在学内の産業医有資格者は合計22名に達している。

(2) 産業医会議の開催

産業医会議は、本学の8事業場の嘱託産業医と当センターの医師が集まり、意見交換、情報共有を行う場である。例年、年1回を目安に開催し、その期間の課題、過重労働対策、復帰支援状況、各事業場の安全衛生委員会の内容などについて意見交換、情報共有を行った。また新規の法改正やガイドライン策定があった場合、本会議においてその紹介と解説を行い、産業医全員で情報共有を行った。今後も引続き産業医会議を実施し、各嘱託産業医の活動内容について報告すると共に、法人へ意見すべき事項がある場合には建設的な意見を提案し、その機能を果たし

て行く予定である。

4) 安全衛生委員会及び学生委員会

実態を確実に把握し，両委員会を通じて活動内容の審議を行う。

年3回，信州大学安全衛生委員会（全学）を開催し，安全衛生活動について審議，報告を行い，全学の安全衛生活動の方向性を定めた。また，各事業場は毎月安全衛生委員会を開催して，安全衛生計画の策定及び実施報告，定期健康診断報告，職場巡視及びその結果への対応，過重労働対策などの活動状況の報告・審議が行われた。当センターは，信州大学安全衛生委員会，松本キャンパス事業場安全衛生委員会の報告・審議事項の提案を行った。総合健康安全センター事務室は，安全衛生委員会における事務局として，報告・審議事項のとりまとめを行っているほか，全学的な対応が必要な事項については，各キャンパスの安全衛生担当窓口へ指示，連絡等を行った。

毎月開催される学生委員会にセンター長，総合健康安全センター事務室長が出席し，学生の健康管理，メンタルヘルス，留年・休学・退学実態調査結果への対応など審議・報告を行ってきた。

5) ネットワーク構築（HP，e-learningの活用）

学内の安全衛生活動の支援のため，ネットワークを構築，活用を行う。

学内の安全衛生活動の支援のため，HPを活用し，学生，教職員へ情報発信を行ってきた。薬品管理システム，健診日程の掲示をはじめ各種のお知らせを行った。

6) 緊急事態への対応

学内の各種災害に備えるとともに，事態への対応を行う。

令和元年10月4日，松本キャンパスにおいて教職員及び学生による防災実務の習得，災害時の情報収集・伝達の迅速化および防災意識の高揚を図るため防災訓練が行われた。総合健康安全センターとしては，避難訓練，災害対策組織設置訓練に参加するとともに，災害において傷病者が発生したと想定し，救助実務訓練を行った。

緊急事態への対応の一つとして，学生・教職員の学内でのケガや事故，感染症への対応がある。修学環境や就業環境に原因があると考えられるケガや事故の場合には，現地の視察等を行い，対応を検討している。

7) 環境活動との連携

安全衛生活動を通じて「環境マインドを持つ人材の養成」を行う。

本学は、信州大学環境方針を掲げ、「環境マインドを持つ人材の養成」を行っている。EMS事務局を中心に、内部監査員による内部監査が実施され、本学においては全学的に環境活動が展開されている。一方、安全衛生活動においても、職場環境について衛生管理者及び産業医等が巡視を通じてチェックを行い、改善が行われている。環境活動としての内部監査、安全衛生活動としての職場巡視は双方重なり合う部分もあり、整合性を取り、連携する必要性が時に指摘される。こうした中で、安全衛生の基本方針にある通り、豊かな環境マインドを醸成しつつ、安全衛生意識の向上に努めている。

8) 化学物質リスクアセスメントの実施

労働安全衛生法の改正に伴い、平成28年より化学物質のリスクアセスメントが義務化された。本学では、化学物質を取り扱う研究者を対象に、コントロールバンディング法によるリスクアセスメントを実施するよう依頼した。総合健康安全センターにリスクアセスメント方法を記載し、また必要に応じて学部を訪問して方法の説明を行った。各自で実施されたリスクアセスメントは、その件数のみ所属部局の安全衛生委員会において報告することとした。今後もリスクアセスメント活動を継続して化学物質による障害を予防し、また必要時にはその方法を改善していく予定である。

2. 作業環境管理

作業環境中の危険有害要因を取り除いて適正な作業環境を確保する。

1) 職場巡視

職場巡視を通じて、研究室の作業環境管理を適切なものにする。

定期の職場巡視については、衛生管理者を中心に実施された。それに合わせて産業医や安全管理者の職場巡視が実施された。職場巡視結果は、安全衛生委員会にて報告され、職場環境の状況が周知されると共に職場環境の改善につながっている。臨時の職場巡視としては、学生や教職員の怪我や事故などが発生した場合に、現場の確認を行った。

2) 作業環境測定

労働安全衛生法施行令第21条に基づく作業環境測定を実施し、結果に基づいた対策を検討する。

作業環境測定は、各事業場において、その職場環境にある危険有害要因に沿って

行われた。本学においては、主に電離放射線、有機溶剤、特化物について、作業環境測定が行われた。

3) 薬品管理システム

学内における化学物質使用量の正確な把握を行う。

学内における薬品使用量の把握は、薬品管理システムにより行われている。

総合健康安全センター事務室は、薬品管理システム運用専門部会の事務局を務め、全学における薬品管理システムの運用の管理を行っている。薬品管理システムに関する情報は、総合健康安全センターのホームページに掲載されており、利用率の向上に努めている。

4) ハザードマップの作成

学内の危険有害要因を化学物質と特定し、その対策を講じる。

ハザードマップの作成は、第1期中期目標・中期計画（平成16年4月1日～平成22年3月31日）において掲げられていた。平成19年度から化学物質を使用する学部においては、学部内の危険薬品所在箇所を記載したハザードマップを作成している。平成20年度からは、このハザードマップを建物ごとに掲示し、学生を含めた避難訓練に利用する学部もある。

3. 作業管理

作業内容や作業方法を把握し、安全衛生面において適切な作業が行えるようにする。

1) 学内の実態把握

研究室単位等の危険有害要因の把握を行う。

各研究室における危険有害要因は、学部、学科、講座、研究室の研究内容によって非常に異なっている。これら危険有害要因の特定は、基本的にはその場で就業する教職員がその危険性を認識し、対応を図ることを原則としているが、職場巡視の中で産業保健スタッフが客観的に危険有害要因を把握し、改善を図ることにもなる。各事業場により異なるが、衛生管理者、安全管理者、産業医、安全衛生担当者等の産業保健スタッフが同行し、巡視を行っている。

2) 実態に即した効果的な職場巡視の計画・実施

実態把握を元にした職場巡視の実施。

職場巡視は、各事業場において、定期的に行われている。学生と教職員が修学・

就業する場である大学は、極めて広大な敷地であり、企業や工場における作業工程と異なり危険有害要因が一元管理されているわけではなく、各研究室の実験における作業管理には限界がある。また、危険有害要因と接点がある作業中（実験や研究中）にまさに巡視を計画することは現実的ではなく、産業保健スタッフによる巡視のみでは限界がある。そのため講座や研究室単位による自主的な作業管理が求められ、その中で産業保健スタッフは適切な作業管理のための助言を求められた場合に専門的な立場で問題解決に当たることが期待される。

3) 日常の自主的管理の支援

研究室単位等の自主的管理が促進するようチェックリストの作成と運用を行う。ヒヤリハットに関する情報の集約を行う。

職場巡視用のチェックリストは、各研究室の自主的な管理を促進させる点でも活用されることを期待している。ただし、特に理系の研究室では、使用している化学物質が非常に多岐にわたっていることもあり、チェックリストの作成事態が容易でなく、使用する化学物質に精通した各研究室の教員による安全衛生管理に委ねられているのが現実である。

ヒヤリハットは、ケガや事故を引き起こしそうになって、ヒヤリとしたり、ハットとしたりした情報を共有し、同様のことを繰り返さないようにする安全衛生活動の一つである。安全衛生委員会で情報を共有し、重大災害を引き起こさないよう周知を行っている。ヒヤリハットの投書に基づき、巡視、委員会における報告・審議を行うことで改善を図った事例もあり、一定の成果を挙げている。

4) 産業保健スタッフによる研究室の支援

産業保健スタッフは、職場巡視等を通じて、研究室等の自主的な作業管理が促進されるように支援する。

職場巡視を通じて発見された問題箇所の改善について、巡視の際に検討も合わせて行っている。巡視によって顕在化した問題点の検討を行うことは、危険有害要因を認知につながり、研究室が自主的な管理を展開して行く上で、教育的な効果があるものと考えられる。したがって巡視の積み重ねは、重大災害の防止に効果があるものと考えられる。

4. 健康管理

1) 過重労働による健康障害防止対策

I. 健康管理の項目で述べた。

2) 喫煙対策

信州大学は平成28年4月より敷地内全面禁煙となった。構内の禁煙は順守されており、逸脱した喫煙行為は認めていない。しかし、いずれのキャンパスでも、条例で禁止されているにもかかわらず、門周囲など敷地境界におけるポイ捨てが散見され、その対策が現在課題となっている。松本地区では、令和元年7月1日に松本市受動喫煙防止に関する条例が施行され、これまでの吸い殻のポイ捨てだけでなく、歩きたばこ等も禁止された。松本市にも働きかけ、喫煙者の多い女鳥羽川河川敷には市により喫煙禁止の掲示が設置された。

3) ストレスチェック制度

労働安全衛生法の改正に伴い、平成28年度よりストレスチェック制度が義務化された。本学においては、既存のWEBシステムを用いて、受検者が簡便に回答できるようなシステムを構築した。初年度の平成28年には、10月の全国労働衛生週間に全学一斉に実施した。しかし、回答割合は50%弱に留り、翌年も大きくは改善しなかった。そこで、本年度は周知の徹底、回答期間の延長に加え、提出率の低かった部局特有の要因に対応する事で（個人のパソコンを保持しない職種には紙ベースでの提出に切り替え）、回答率が向上した。

令和元年度 信州大学ストレスチェック実施報告

1. 実施期間：令和元年10月1日～10月21日
2. 実施者：総合健康安全センター長
3. 事業場別実施状況

事業場名	実施対象者数 (在籍労働者数)	検査を受けた 労働者数	面接指導を受けた 労働者数
松本キャンパス	1,201	708	0
松本附属学校園	66	35	1
医学部附属病院	1,975	1,153	0
長野（教育）キャンパス	160	116	1
長野附属学校	107	98	0
長野（工学）キャンパス	395	259	0
伊那キャンパス	184	112	0
上田キャンパス	282	164	0
合 計	4,370	2,645	

※実施対象者数は、令和元年8月1日現在でACSU業務IDを持つ教職員数（同年9月30日までの退職者を除く）。但し、アルバイト雇用職員，非常勤講師及び人事データ上就業場所の記載ない非常勤職員（特別招へい教授等）を除く。

5. 安全衛生教育

安全衛生管理体制，作業環境管理，作業管理，健康管理について正しい知識を習得する。

1) 産業保健スタッフの技能向上

衛生管理者・安全管理者，産業医，看護職の技能が向上するための講習会等を企画する。

衛生管理者・安全管理者を対象に安全衛生の水準向上を図るために，より快適な職場環境の実現と労働災害防止のための業務について講習，ワークショップを行い能力の向上を図っている。

2) 安全教育，健康教育

学生，教職員の研修会を実施し，安全及び健康についての理解を深める。

(1) 衛生管理者・安全管理者研修会

目的:本研修は各事業場における安全衛生の水準向上を図り，衛生管理者，安全管理者に対し，より快適な職場環境の実現と労働災害防止のための業務について講習を行い能力の向上を図ることを目的とする。
本年度は災害対策についての講演を企画した。

日時: 令和2年1月23日（木）10時30分～12時00分

場所: 松本キャンパス 旭会館3階大会議室（主会場）

長野（教育）・長野（工学）・伊那・上田の各キャンパス遠隔会議室

受講対象者: ・各事業場衛生管理者，安全管理者
・衛生管理者免許所有者（任意参加）
・教育学部附属学校園 養護教諭
・各キャンパス保健師等

当日出席者: 39名

内容: 「災害リスクに備えるための心理と行動の基礎知識」

講師: 信州大学地域防災減災センター センター長

信州大学学術研究院（人文科学系） 教授

菊池 聡 先生

2019年度 学生定期健康診断の受診者数・受診率

共通教育

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
人文学部	162 人	162 人 (100.0 %)	162 人 (100.0 %)	162 人 (100.0 %)	162 人 (100.0 %)	152 人 (93.8 %)
経法学部	189 人	189 人 (100.0 %)	189 人 (100.0 %)	189 人 (100.0 %)	189 人 (100.0 %)	176 人 (93.1 %)
理学部	210 人	210 人 (100.0 %)	210 人 (100.0 %)	210 人 (100.0 %)	210 人 (100.0 %)	196 人 (93.3 %)
医学部	264 人	264 人 (100.0 %)	264 人 (100.0 %)	264 人 (100.0 %)	264 人 (100.0 %)	255 人 (96.6 %)
教育学部	246 人	246 人 (100.0 %)	246 人 (100.0 %)	246 人 (100.0 %)	246 人 (100.0 %)	243 人 (98.8 %)
工学部	495 人	495 人 (100.0 %)	495 人 (100.0 %)	495 人 (100.0 %)	495 人 (100.0 %)	478 人 (96.6 %)
農学部	177 人	177 人 (100.0 %)	177 人 (100.0 %)	177 人 (100.0 %)	177 人 (100.0 %)	168 人 (94.9 %)
繊維学部	293 人	293 人 (100.0 %)	293 人 (100.0 %)	293 人 (100.0 %)	293 人 (100.0 %)	285 人 (97.3 %)
計	2036 人	2036 人 (100.0 %)	2036 人 (100.0 %)	2036 人 (100.0 %)	2036 人 (100.0 %)	1953 人 (95.9 %)

対象者数は 5月1日現在

2019年度 学生定期健康診断の受診者数・受診率

人文学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	150 人	119 人 (79.3 %)	119 人 (79.3 %)	119 人 (79.3 %)	38 人 (25.3 %)	96 人 (64.0 %)
3年生	167 人	122 人 (73.1 %)	122 人 (73.1 %)	122 人 (73.1 %)	72 人 (43.1 %)	98 人 (58.7 %)
4年生	223 人	148 人 (66.4 %)	148 人 (66.4 %)	148 人 (66.4 %)	143 人 (64.1 %)	139 人 (62.3 %)
計	540 人	389 人 (72.0 %)	389 人 (72.0 %)	389 人 (72.0 %)	253 人 (46.9 %)	333 人 (61.7 %)

経法学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	197 人	146 人 (74.1 %)	146 人 (74.1 %)	146 人 (74.1 %)	56 人 (28.4 %)	121 人 (61.4 %)
3年生	195 人	157 人 (80.5 %)	157 人 (80.5 %)	157 人 (80.5 %)	118 人 (60.5 %)	150 人 (76.9 %)
4年生	199 人	175 人 (87.9 %)	175 人 (87.9 %)	173 人 (86.9 %)	170 人 (85.4 %)	164 人 (82.4 %)
計	591 人	478 人 (80.9 %)	478 人 (80.9 %)	476 人 (80.5 %)	344 人 (58.2 %)	435 人 (73.6 %)

対象者数は 5月1日現在
 学年は入学年度
 5年生以上は4年生に含む

2019年度 学生定期健康診断の受診者数・受診率

理学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	205 人	178 人 (86.8 %)	177 人 (86.3 %)	177 人 (86.3 %)	105 人 (51.2 %)	150 人 (73.2 %)
3年生	196 人	158 人 (80.6 %)	158 人 (80.6 %)	158 人 (80.6 %)	110 人 (56.1 %)	139 人 (70.9 %)
4年生	249 人	188 人 (75.5 %)	188 人 (75.5 %)	188 人 (75.5 %)	184 人 (73.9 %)	174 人 (69.9 %)
計	650 人	524 人 (80.6 %)	523 人 (80.5 %)	523 人 (80.5 %)	399 人 (61.4 %)	463 人 (71.2 %)

教育学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	249 人	248 人 (99.6 %)	248 人 (99.6 %)	248 人 (99.6 %)	247 人 (99.2 %)	243 人 (97.6 %)
3年生	246 人	242 人 (98.4 %)	242 人 (98.4 %)	241 人 (98.0 %)	241 人 (98.0 %)	238 人 (96.7 %)
4年生	303 人	273 人 (90.1 %)	273 人 (90.1 %)	268 人 (88.4 %)	263 人 (86.8 %)	265 人 (87.5 %)
計	798 人	763 人 (95.6 %)	763 人 (95.6 %)	757 人 (94.9 %)	751 人 (94.1 %)	746 人 (93.5 %)

対象者数は 5月1日現在
 学年は入学年度
 5年生以上は4年生に含む

2019年度 学生定期健康診断の受診者数・受診率

工学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	495 人	488 人 (98.6 %)	488 人 (98.6 %)	488 人 (98.6 %)	193 人 (39.0 %)	465 人 (93.9 %)
3年生	525 人	495 人 (94.3 %)	495 人 (94.3 %)	493 人 (93.9 %)	494 人 (94.1 %)	483 人 (92.0 %)
4年生	632 人	531 人 (84.0 %)	531 人 (84.0 %)	496 人 (78.5 %)	533 人 (84.3 %)	532 人 (84.2 %)
計	1652 人	1514 人 (91.6 %)	1514 人 (91.6 %)	1477 人 (89.4 %)	1220 人 (73.8 %)	1480 人 (89.6 %)

農学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	171 人	170 人 (99.4 %)	170 人 (99.4 %)	170 人 (99.4 %)	109 人 (63.7 %)	167 人 (97.7 %)
3年生	173 人	168 人 (97.1 %)	168 人 (97.1 %)	168 人 (97.1 %)	143 人 (82.7 %)	164 人 (94.8 %)
4年生	203 人	195 人 (96.1 %)	195 人 (96.1 %)	195 人 (96.1 %)	195 人 (96.1 %)	188 人 (92.6 %)
計	547 人	533 人 (97.4 %)	533 人 (97.4 %)	533 人 (97.4 %)	447 人 (81.7 %)	519 人 (94.9 %)

対象者数は 5月1日現在
 学年は入学年度
 5年生以上は 4年生に含む

2019年度 学生定期健康診断の受診者数・受診率

繊維学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	296 人	284 人 (95.9 %)	284 人 (95.9 %)	283 人 (95.6 %)	3 人 (1.0 %)	280 人 (94.6 %)
3年生	302 人	283 人 (93.7 %)	282 人 (93.4 %)	281 人 (93.0 %)	33 人 (10.9 %)	277 人 (91.7 %)
4年生	355 人	300 人 (84.5 %)	300 人 (84.5 %)	295 人 (83.1 %)	285 人 (80.3 %)	298 人 (83.9 %)
計	953 人	867 人 (91.0 %)	866 人 (90.9 %)	859 人 (90.1 %)	321 人 (33.7 %)	855 人 (89.7 %)

医学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	266 人	251 人 (94.4 %)	251 人 (94.4 %)	251 人 (94.4 %)	251 人 (94.4 %)	248 人 (93.2 %)
3年生	266 人	253 人 (95.1 %)	253 人 (95.1 %)	253 人 (95.1 %)	253 人 (95.1 %)	246 人 (92.5 %)
4年生	287 人	275 人 (95.8 %)	275 人 (95.8 %)	275 人 (95.8 %)	275 人 (95.8 %)	264 人 (92.0 %)
5年生	120 人	108 人 (90 %)	108 人 (90 %)	108 人 (90 %)	108 人 (90 %)	102 人 (85.0 %)
6年生	162 人	142 人 (87.7 %)	142 人 (87.7 %)	142 人 (87.7 %)	142 人 (87.7 %)	140 人 (86.4 %)
計	1101 人	1029 人 (93.5 %)	1029 人 (93.5 %)	1029 人 (93.5 %)	1029 人 (93.5 %)	1000 人 (90.8 %)

対象者数は 5月1日現在

学年は入学年度

保健学科の5年生以上は4年生に含む

医学科の7年生以上は6年生に含む

2019年度 学生定期健康診断の受診者数・受診率

大学院

		対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
人文科学研究科		9 人	3 人 (33.3%)	3 人 (33.3%)	3 人 (33.3%)	3 人 (33.3%)	3 人 (33.3%)
教育学研究科		96 人	77 人 (80.2%)	76 人 (79.2%)	70 人 (72.9%)	74 人 (77.1%)	72 人 (75.0%)
経済・社会政策科学研究科		18 人	1 人 (5.6%)	1 人 (5.6%)	1 人 (5.6%)	0 人 (0%)	1 人 (5.6%)
医学系研究科		59 人	38 人 (64.4%)	38 人 (64.4%)	38 人 (64.4%)	37 人 (62.7%)	33 人 (55.9%)
総合理工学研究科	理学	138 人	120 人 (87.0%)	120 人 (87.0%)	120 人 (87.0%)	115 人 (83.3%)	110 人 (79.7%)
	工学	695 人	554 人 (79.7%)	554 人 (79.7%)	530 人 (76.3%)	556 人 (80.0%)	563 人 (81.0%)
	繊維学	404 人	354 人 (87.6%)	354 人 (87.6%)	354 人 (87.6%)	197 人 (48.8%)	352 人 (87.1%)
	農学	103 人	103 人 (100.0%)	103 人 (100.0%)	103 人 (100.0%)	103 人 (100.0%)	101 人 (98.1%)
	生命医工学	80 人	69 人 (86.3%)	69 人 (86.3%)	69 人 (86.3%)	56 人 (70.0%)	69 人 (86.3%)
総合工学系研究科		101 人	41 人 (40.6%)	41 人 (40.6%)	39 人 (38.6%)	23 人 (22.8%)	40 人 (39.6%)
総合医理工学系研究科		110 人	78 人 (70.9%)	78 人 (70.9%)	76 人 (69.1%)	63 人 (57.3%)	74 人 (67.3%)
計		1813 人	1438 人 (79.3%)	1437 人 (79.3%)	1403 人 (77.4%)	1227 人 (67.7%)	1418 人 (78.2%)

対象者数は 5月1日現在

学生の身体計測結果（全学生）

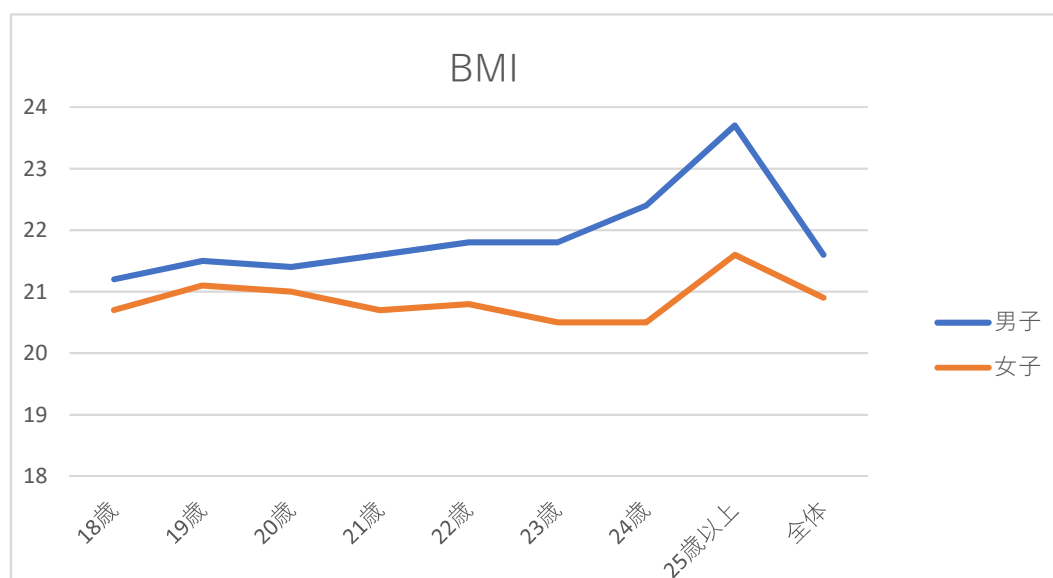
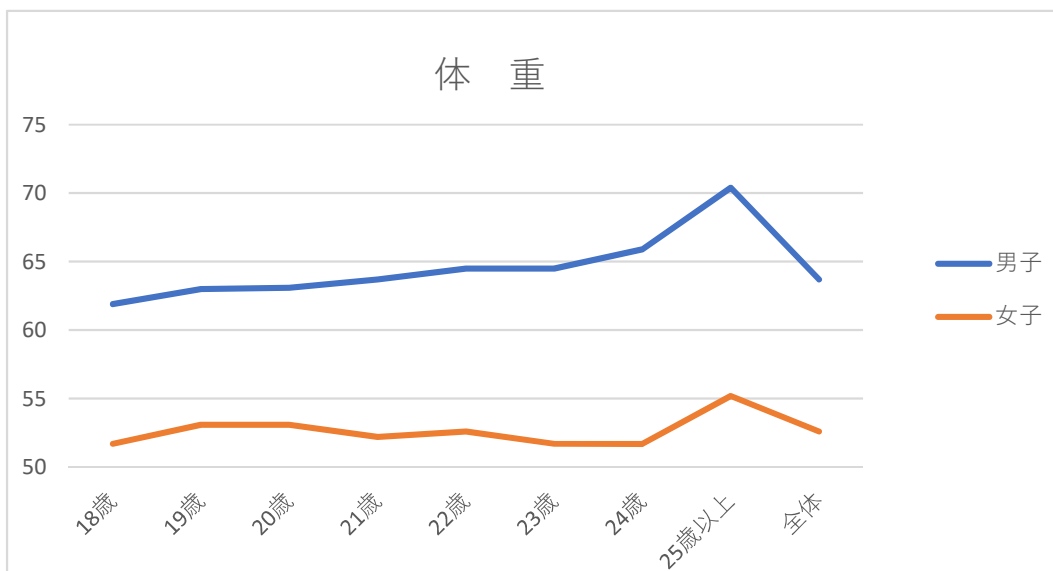
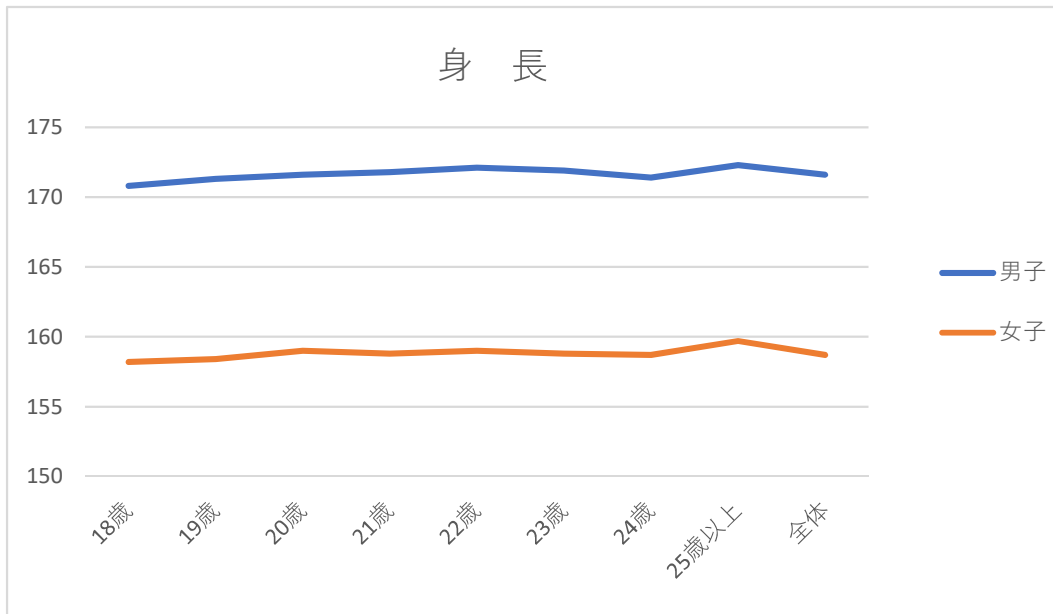
男子

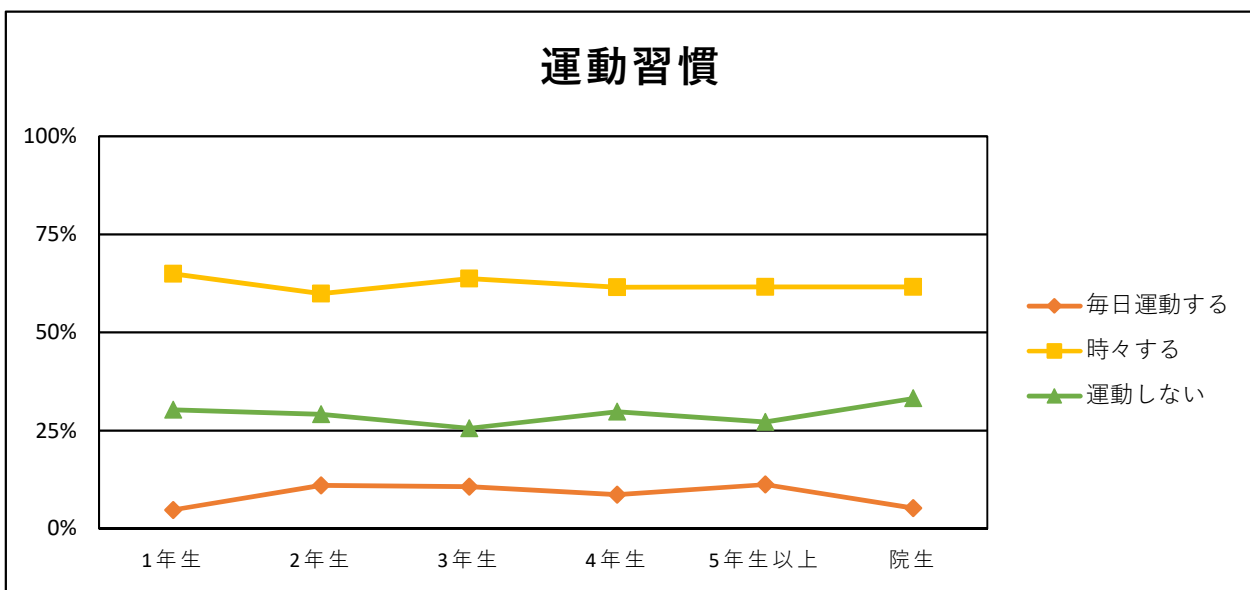
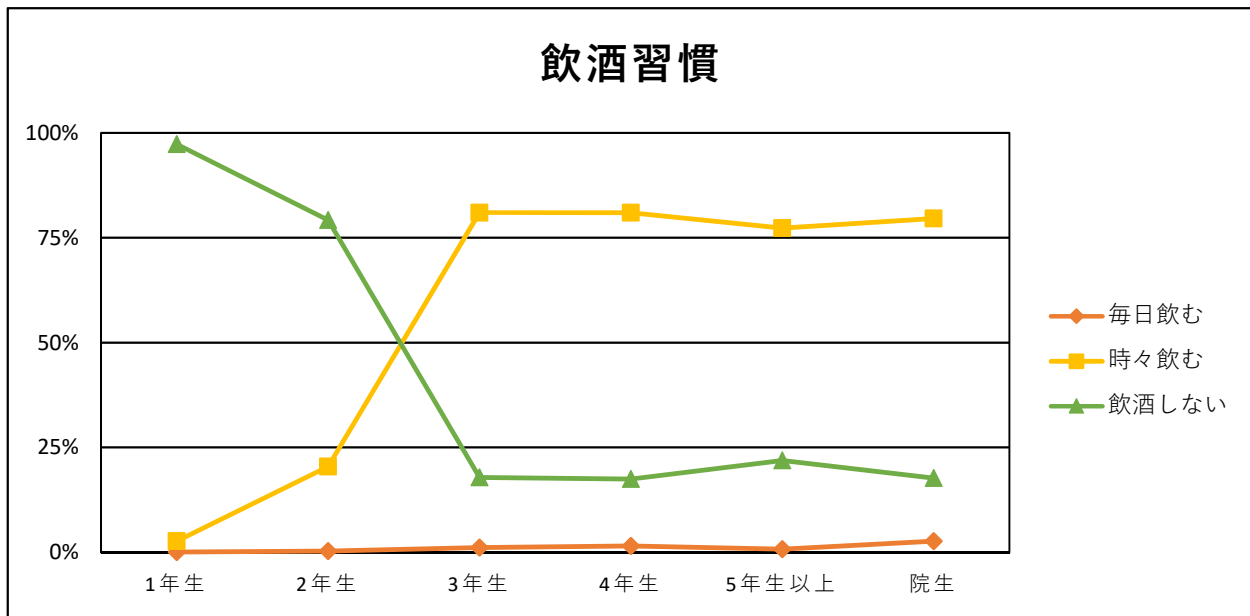
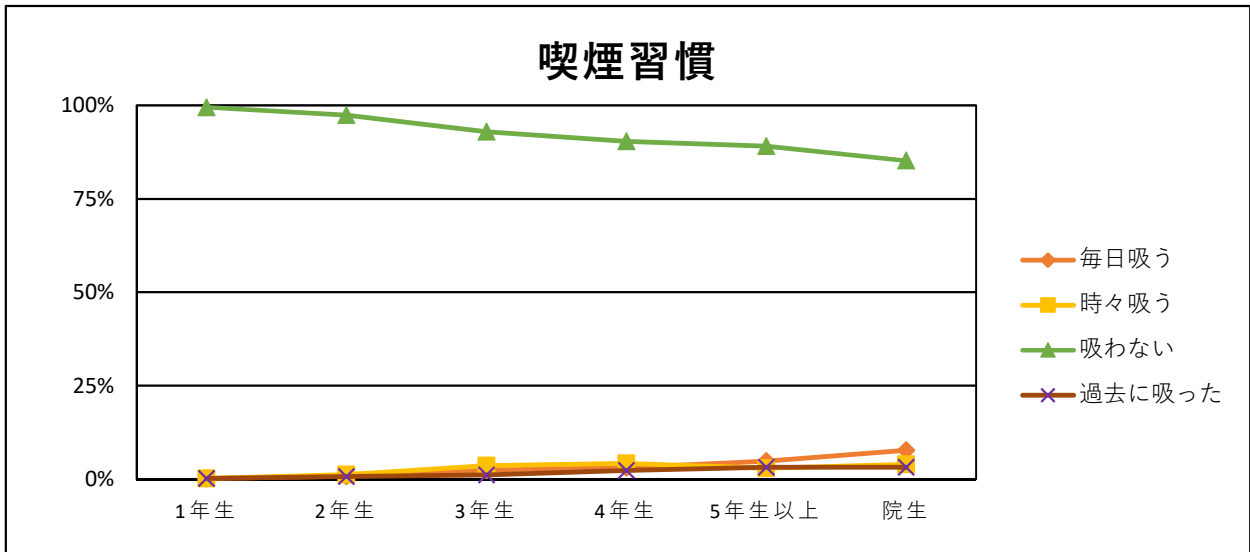
年齢	人数	身長 (cm)	体重 (Kg)	BMI
18	945	170.8±5.7	61.9±9.3	21.2±2.9
19	1177	171.3±5.9	63.0±9.8	21.5±3.0
20	1194	171.6±5.8	63.1±9.5	21.4±2.8
21	1214	171.8±5.8	63.7±9.7	21.6±3.0
22	757	172.1±5.7	64.5±9.9	21.8±3.2
23	613	171.9±5.7	64.5±10.9	21.8±3.2
24	245	171.4±6.1	65.9±11.9	22.4±3.8
25以上	286	172.3±5.9	70.4±12.7	23.7±4.0
全体	6431	171.6±5.8	63.7±10.2	21.6±3.1

女子

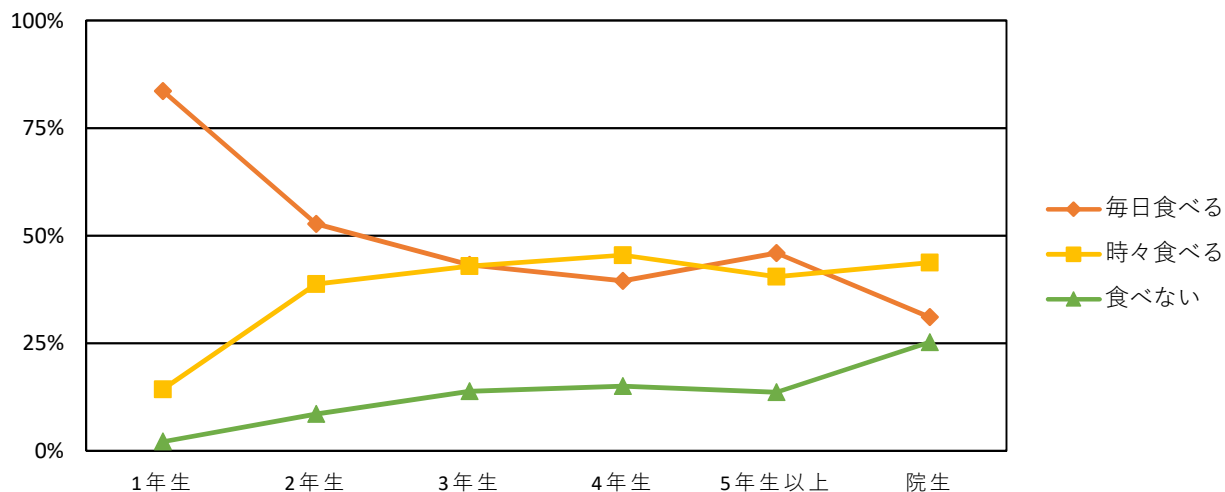
年齢	人数	身長 (cm)	体重 (Kg)	BMI
18	543	158.2±5.2	51.7±6.7	20.7±2.4
19	640	158.4±5.2	53.1±7.2	21.1±2.5
20	680	159.0±5.5	53.1±7.1	21.0±2.5
21	703	158.8±5.3	52.2±7.1	20.7±2.4
22	286	159.0±5.2	52.6±7.0	20.8±2.5
23	177	158.8±5.0	51.7±7.3	20.5±2.6
24	69	158.7±5.2	51.7±8.3	20.5±2.7
25以上	96	159.7±5.4	55.2±8.6	21.6±3.0
全体	3194	158.7±5.3	52.6±7.2	20.9±2.5

学生の身体計測結果(年齢別)

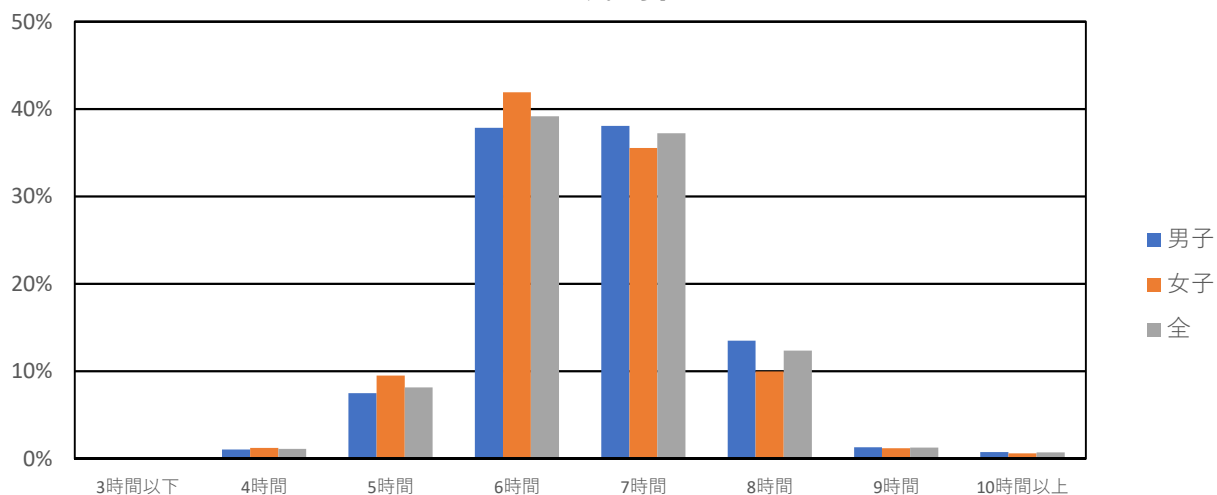




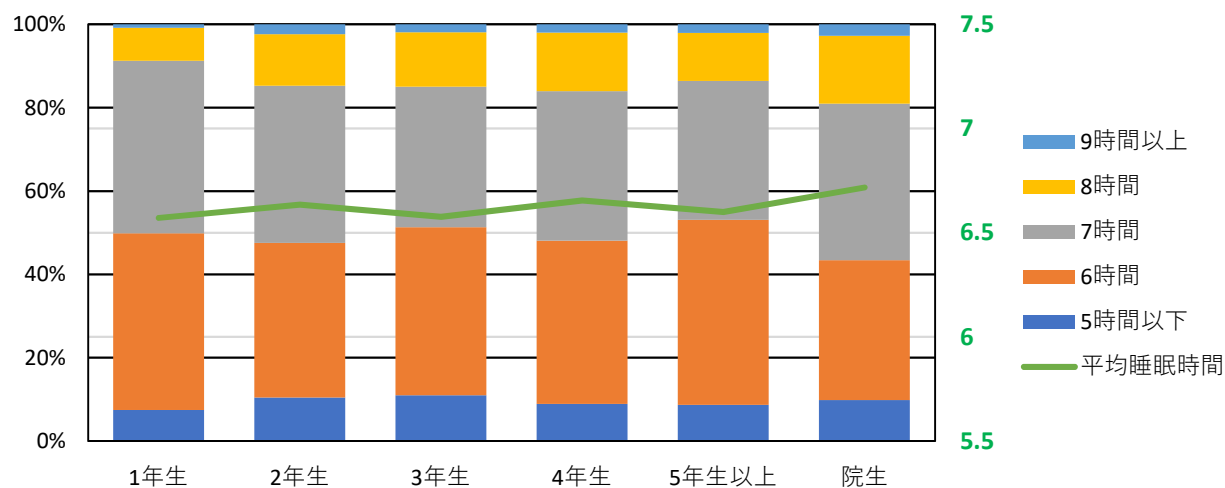
朝食習慣



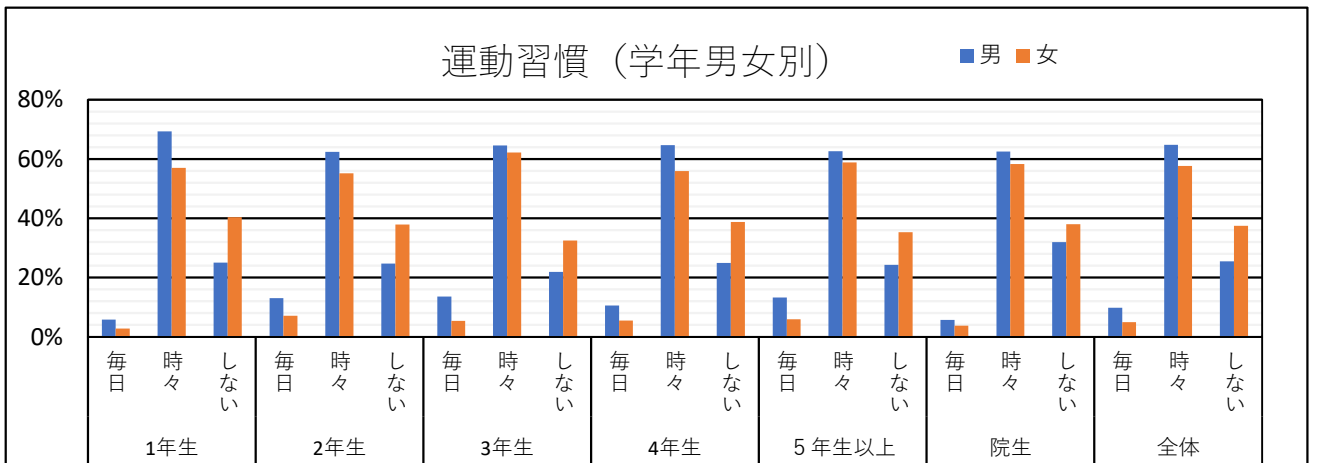
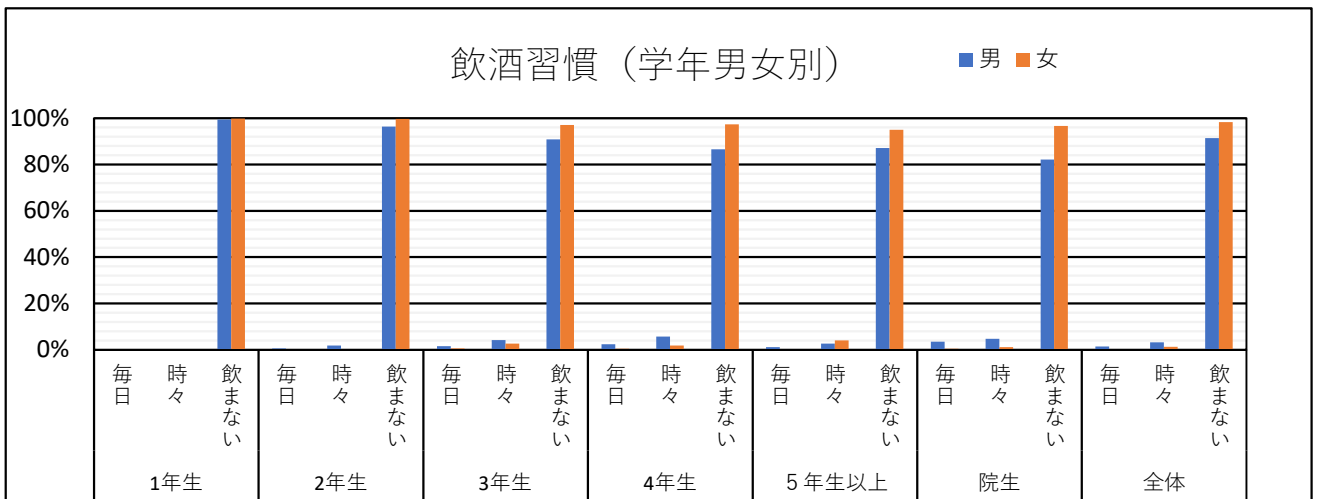
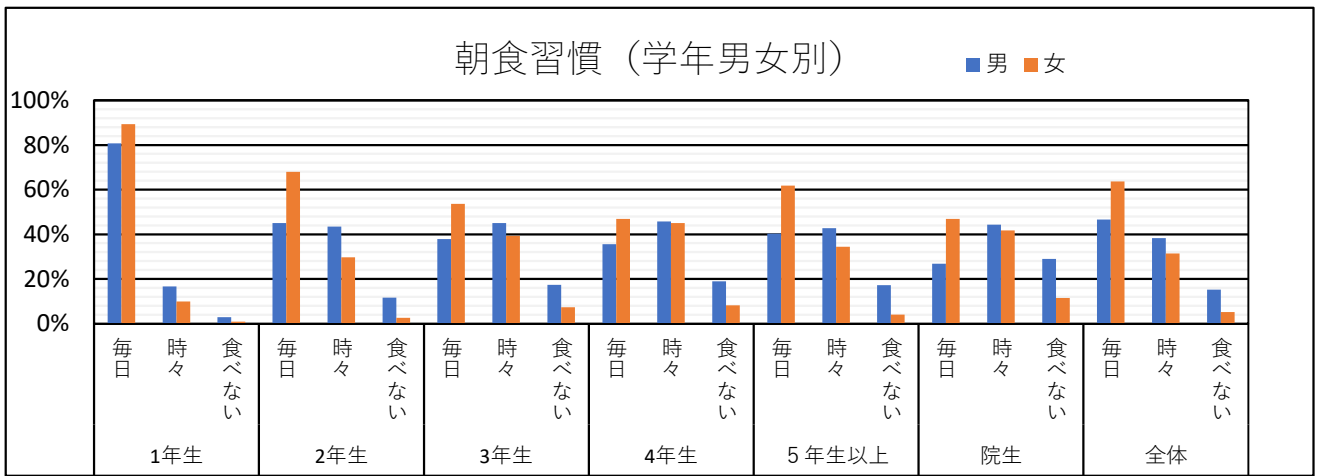
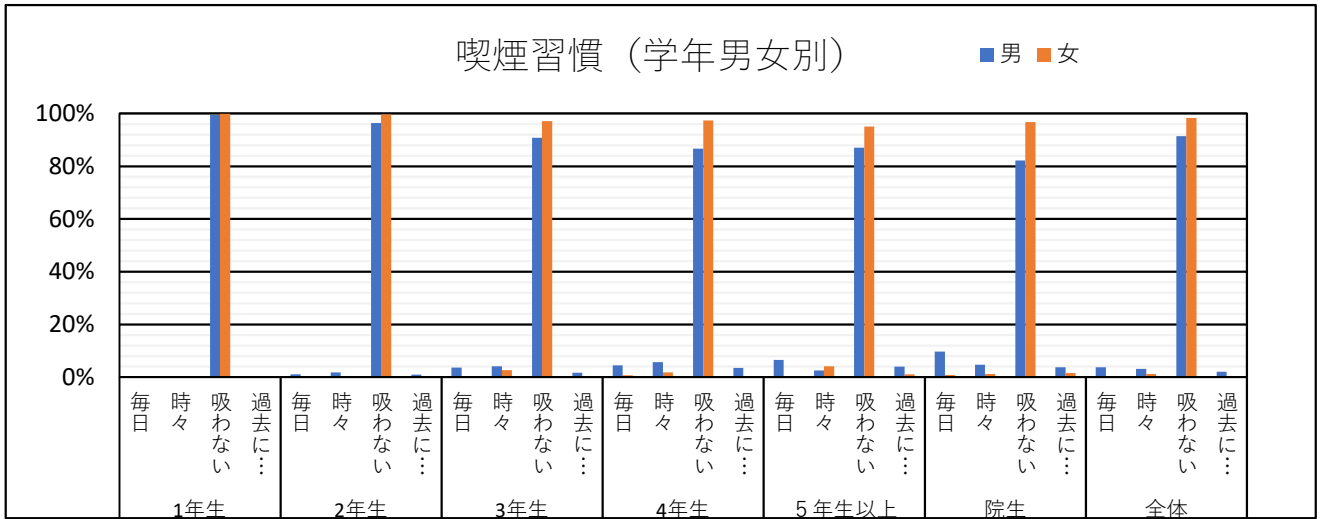
睡眠時間

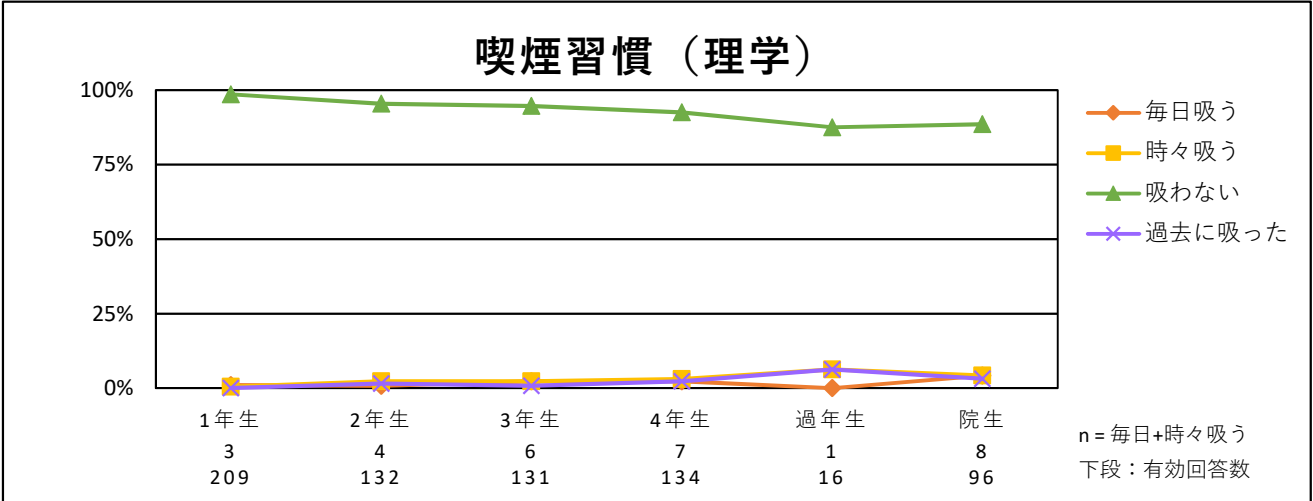
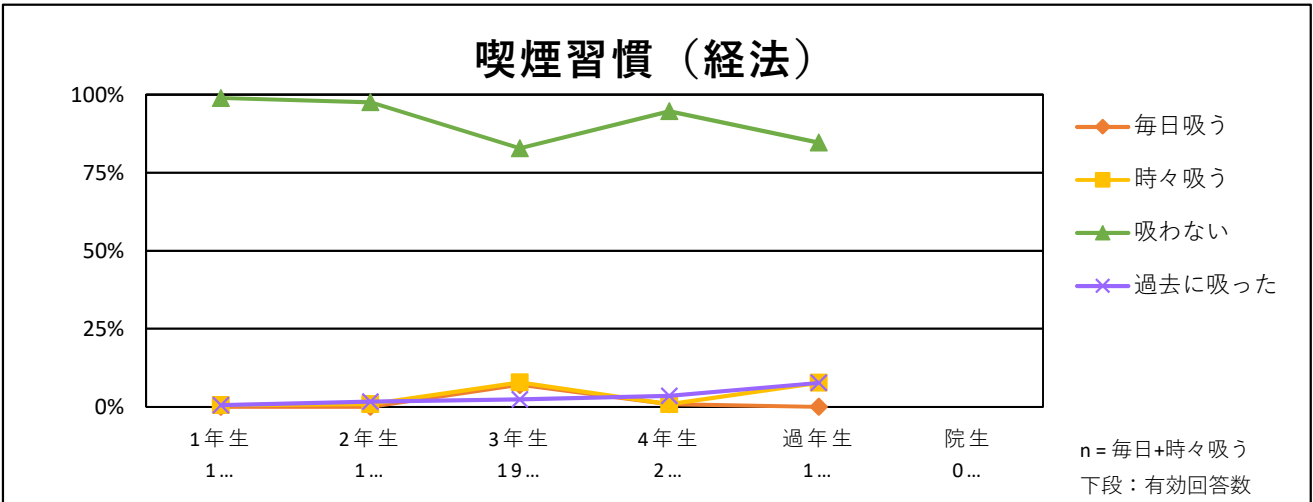
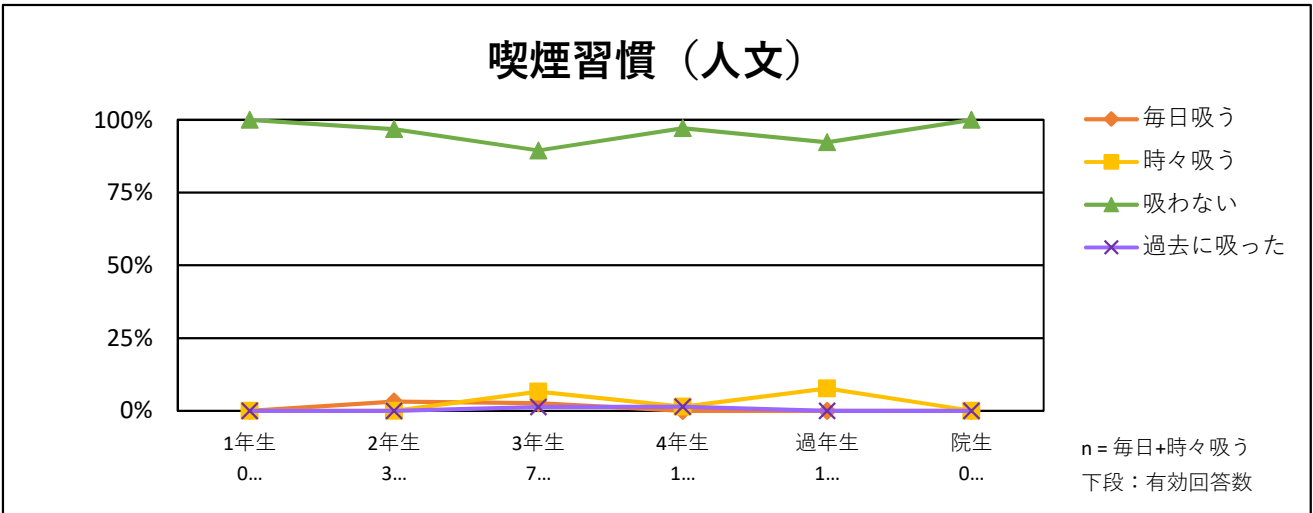
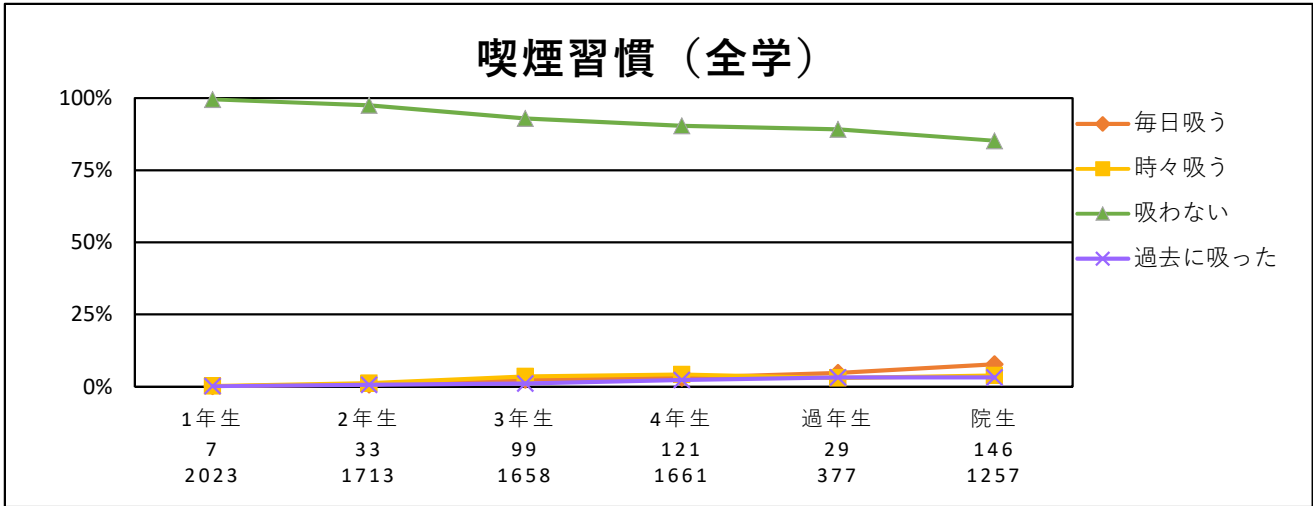


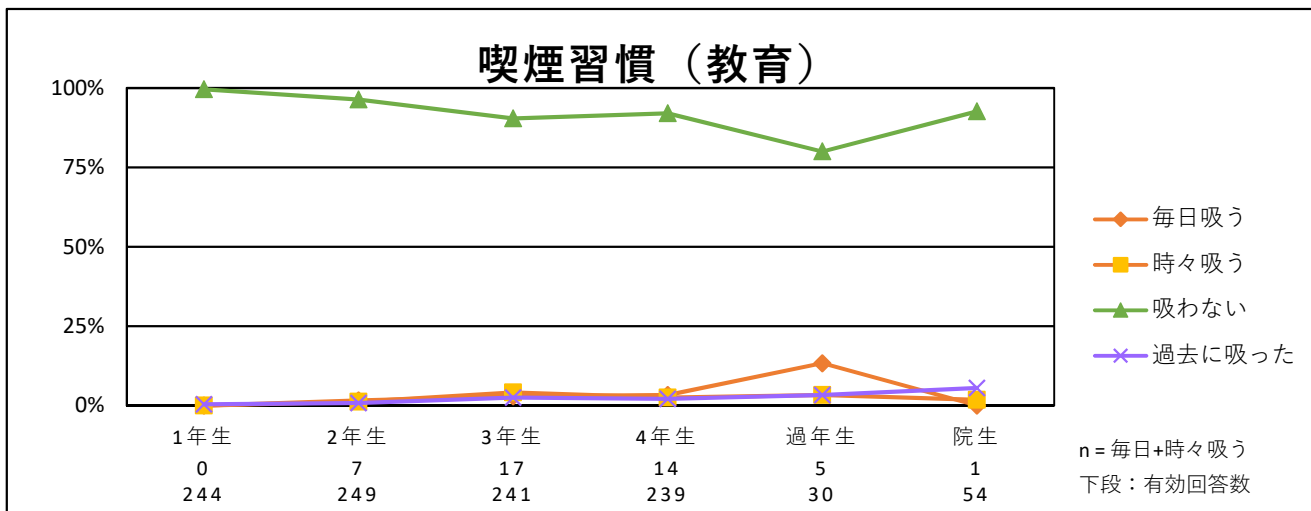
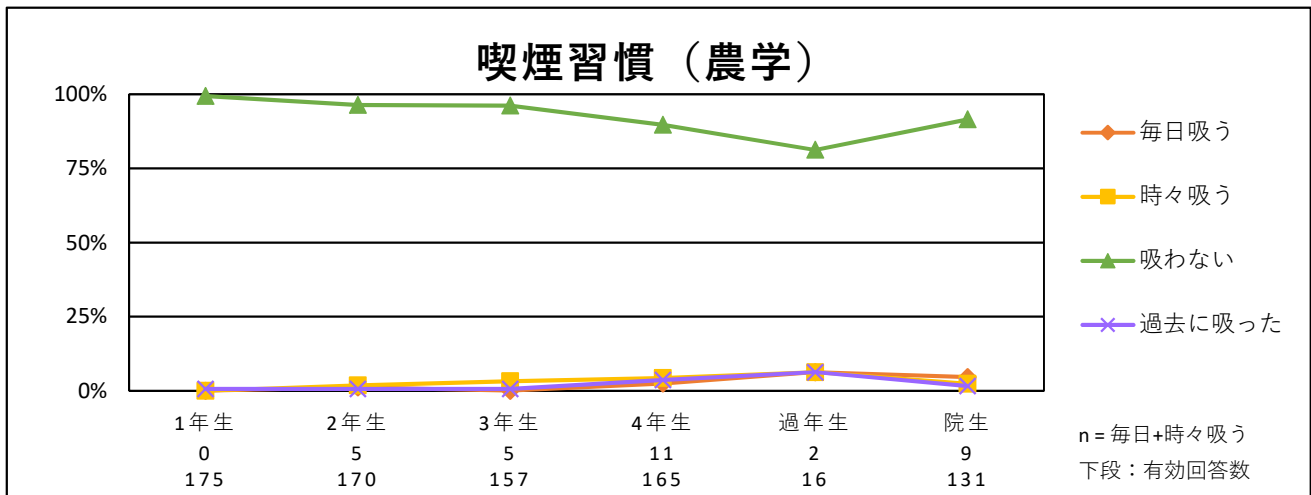
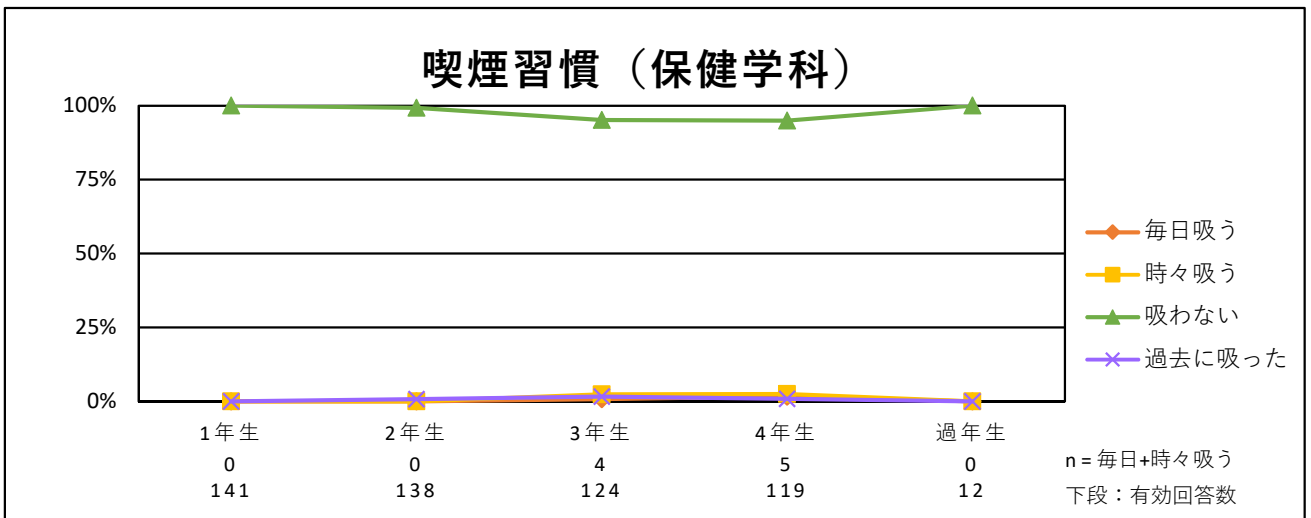
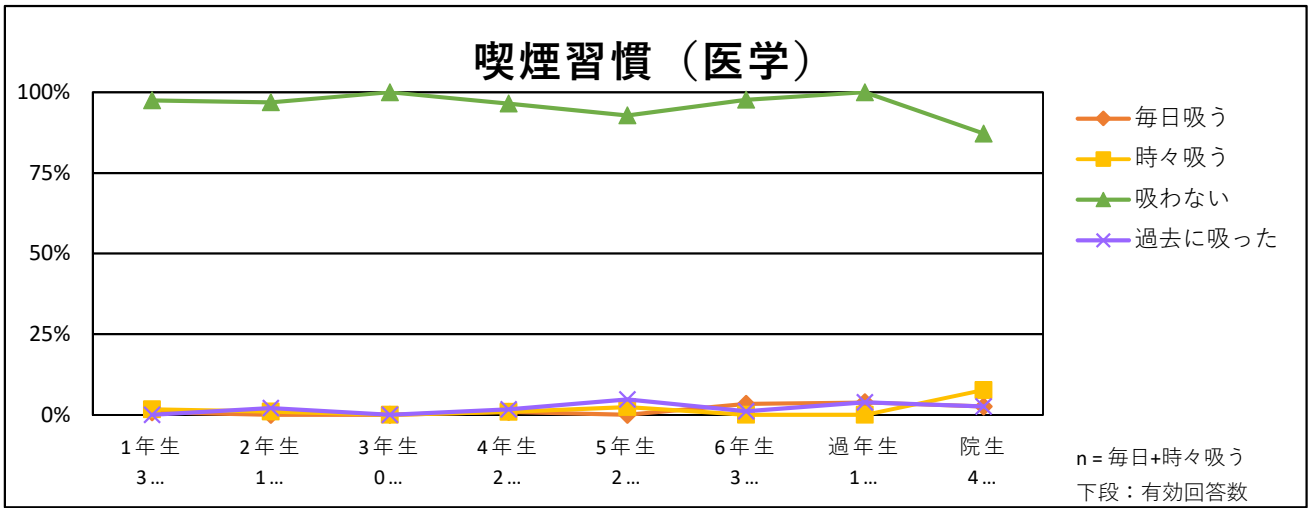
睡眠時間と平均睡眠時間

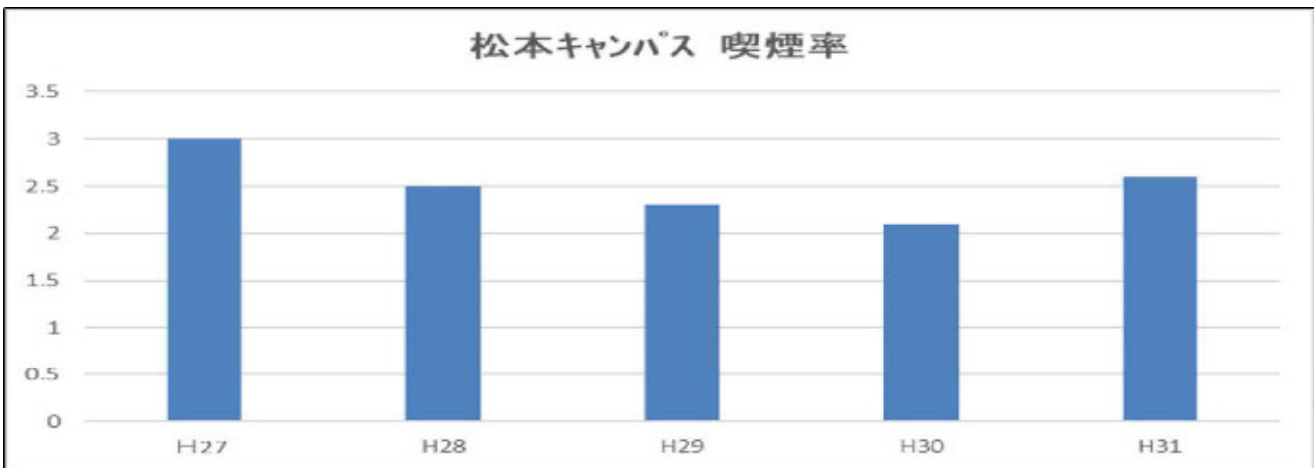
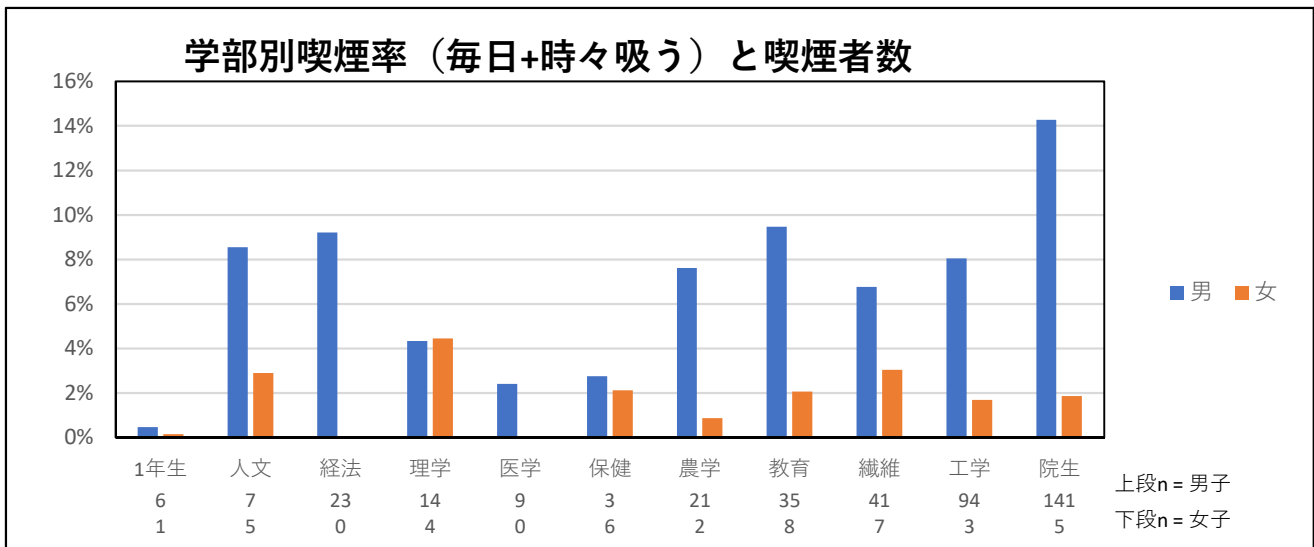
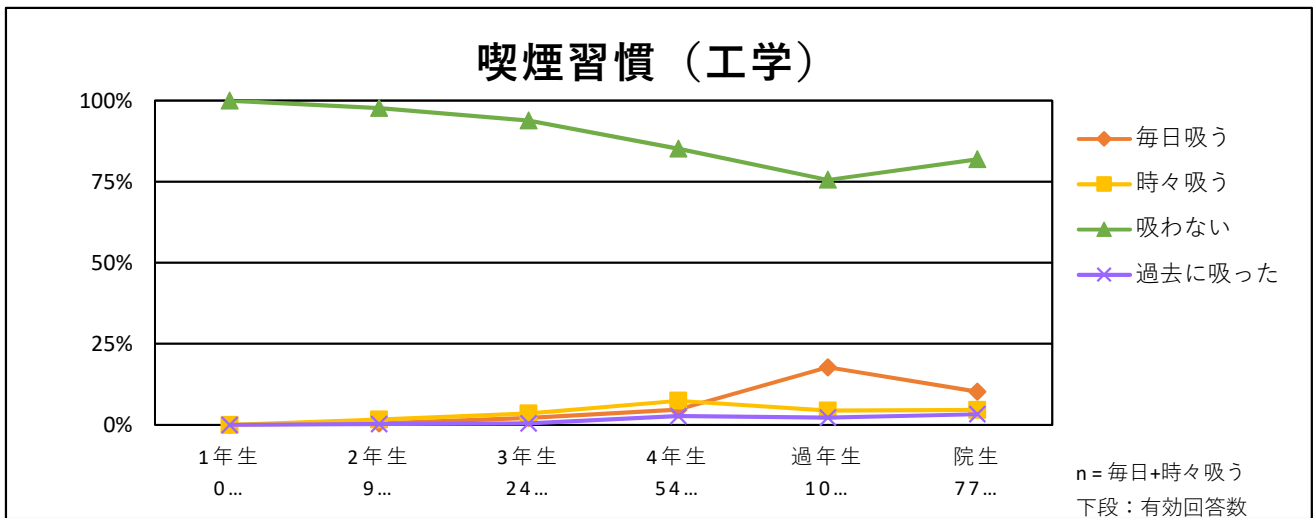
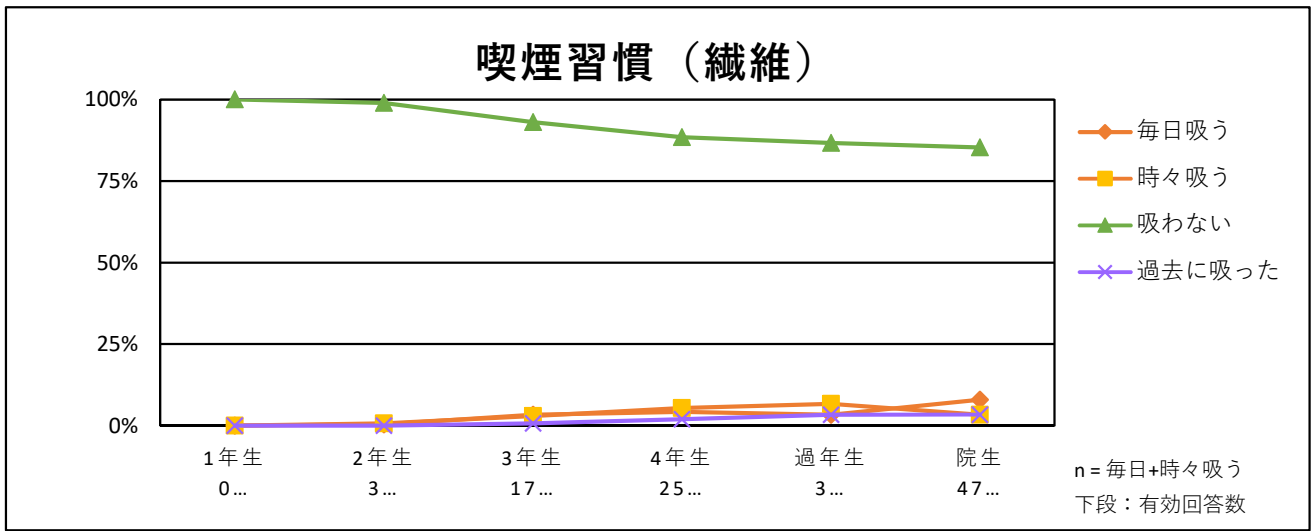


～ 生活習慣（男女別） ～

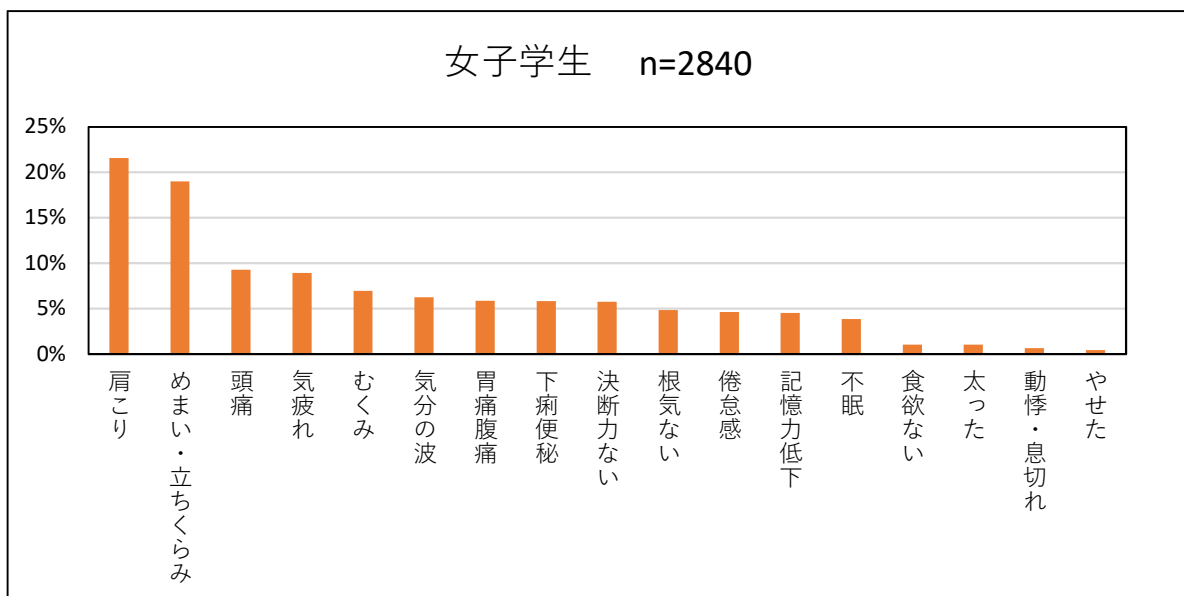
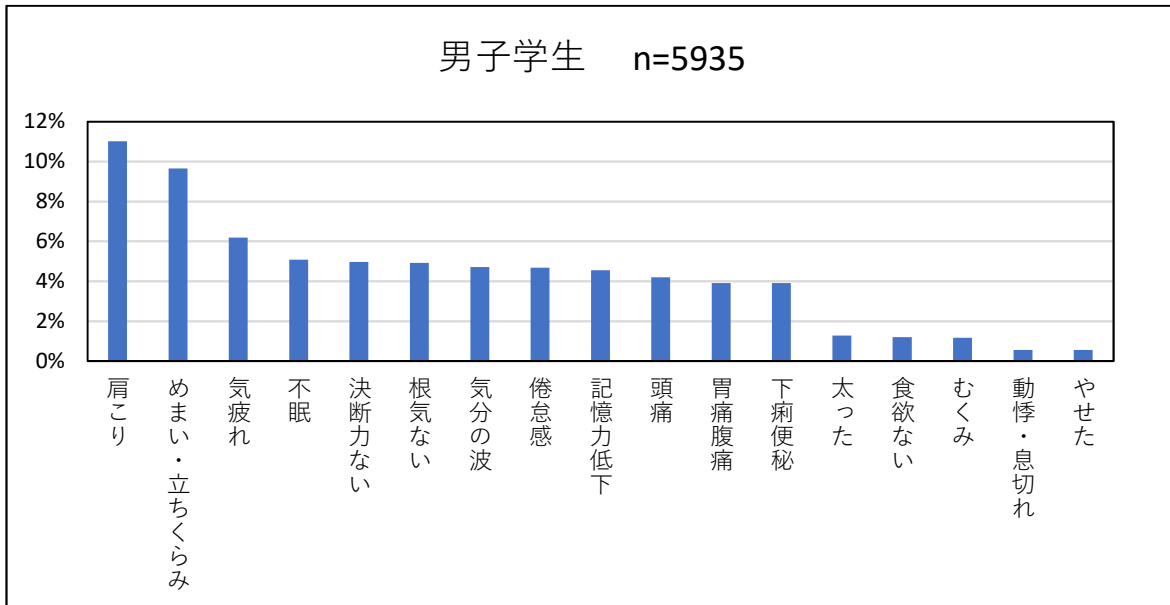
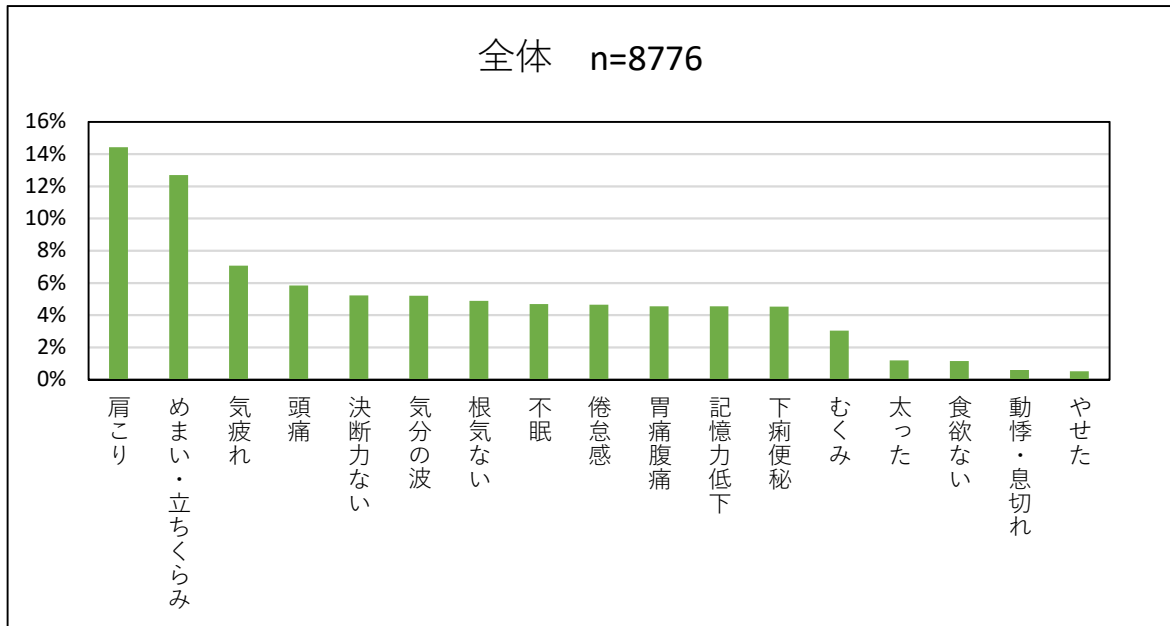




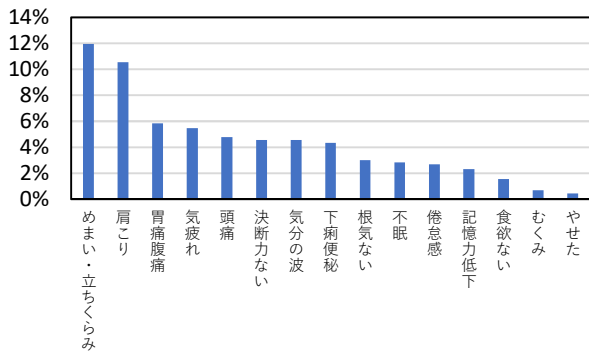




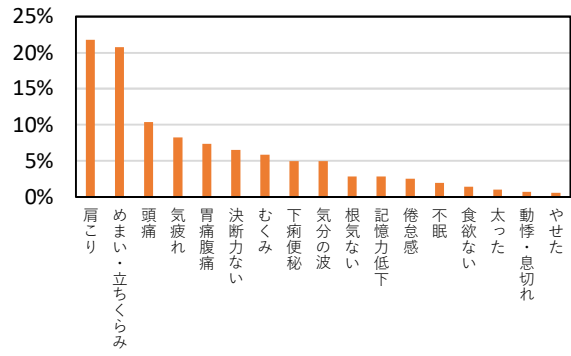
～ 自覚症状（全学） ～



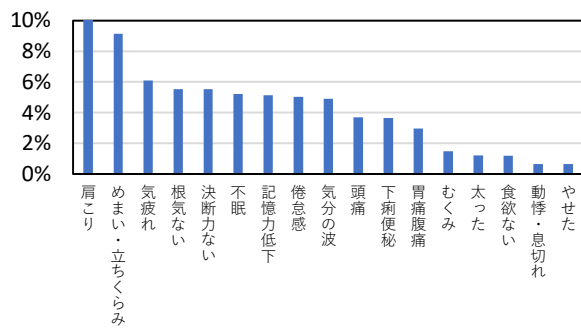
1年男子 n=1338



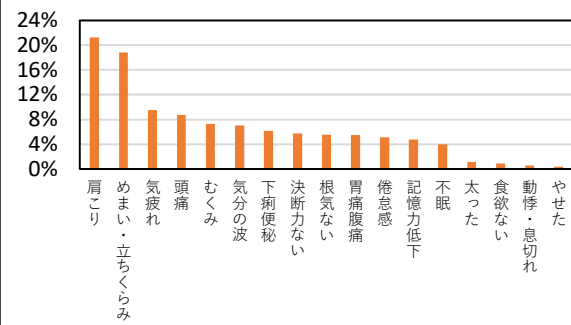
1年女子 n=703



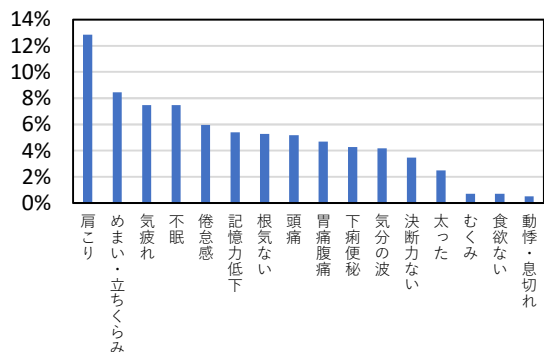
学部生男子 n=3593



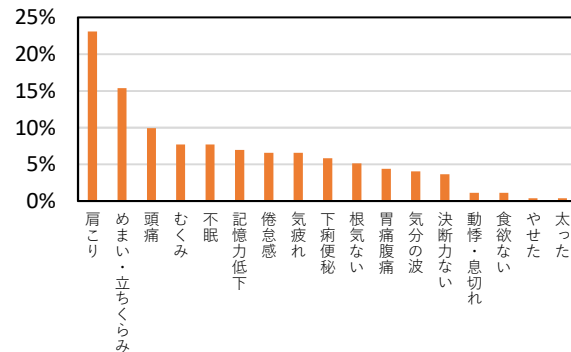
学部生女子 n=1864



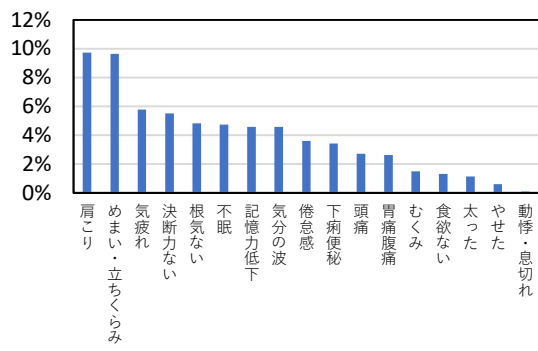
院生男子 n=1004



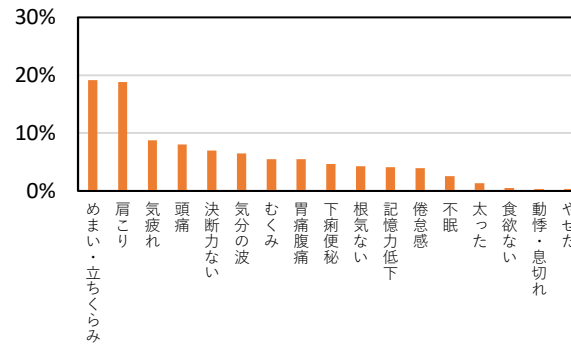
院生女子 n=273



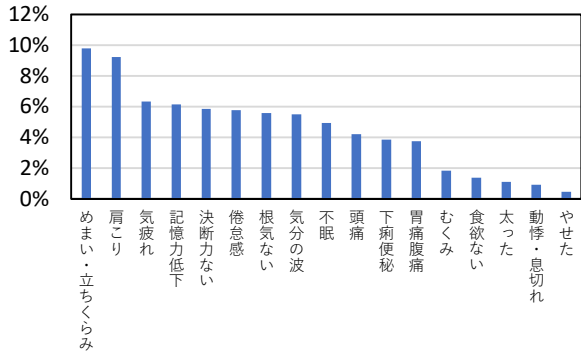
2年男子 n=1141



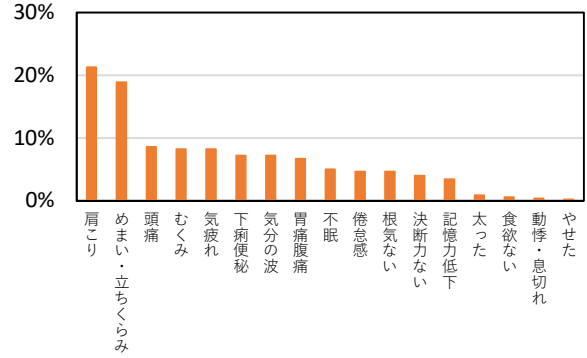
2年女子 n=585



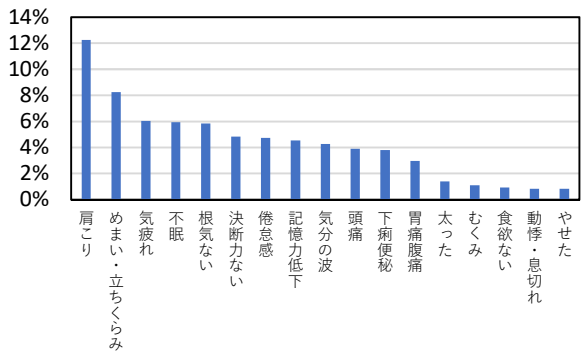
3年男子 n=1093



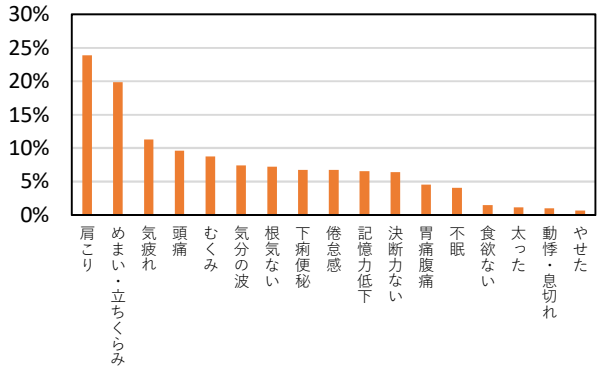
3年女子 n=583



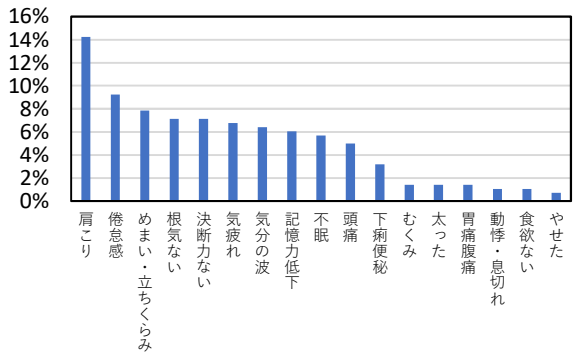
4年男子 n=1078



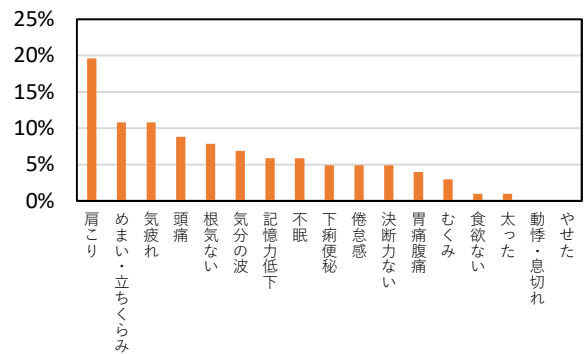
4年女子 n=594



5年以上男子 n=281



5年以上女子 n=102



2019年度 定期健康診断 精検結果

資料 3

		松本	教育	工学	農学	繊維	大学院	計	
内科	健診受診者	4453	757	1477	533	859	1403	9482	
	要精検者	63	17	6		3	3	92	
	%	(1.4)	(2.2)	(0.4)		(0.3)	(0.2)	(1.0)	
	結果	健康	40	2	3		1		46
		要観察	16	8	1		1	2	28
要医療		1	3					4	
胸部X-P	健診受診者	4061	751	1220	447	321	1227	8027	
	要精検者	41	8	14	1	5	11	80	
	%	(1.0)	(1.1)	(1.1)	(0.2)	(1.6)	(0.9)	(1.0)	
	結果	健康	35	8	13	1	5	10	72
		要観察	3		1				4
要医療		3						3	
血压	健診受診者	4455	763	1514	533	866	1437	9568	
	要再検者	176	35	94	11	61	45	422	
	%	(4.0)	(4.6)	(6.2)	(2.1)	(7.0)	(3.1)	(4.4)	
	結果	健康	163	4	65	1	36	32	301
		要観察		26			3	3	32
要医療			1					1	
尿検査	健診受診者	4186	746	1480	519	855	1418	9204	
	要再検者	149	24	22	24	25	40	284	
	%	(3.6)	(3.2)	(1.5)	(4.6)	(2.9)	(2.8)	(3.1)	
	結果	健康	99	19	14	13	11	32	188
		要観察	21	2		3	1	3	30
要医療		6	2		1	6		15	

平成23～令和元年度 年度別留年率調

【留年】②

資料 4

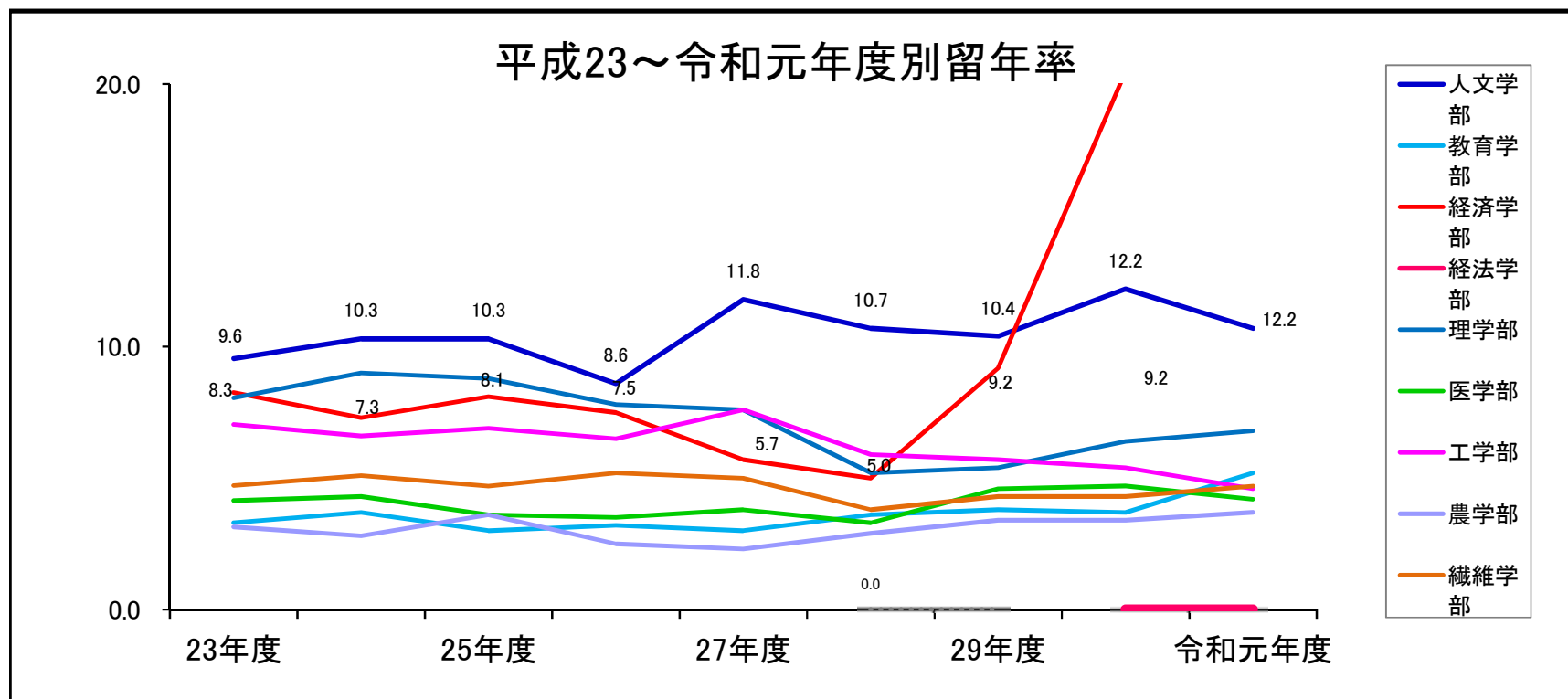
単位：%

(留年率=各年度の在学学生数に対する留年生数の割合)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
人文学部	9.6	10.3	10.3	8.6	11.8	10.7	10.4	12.2	10.7
教育学部	3.3	3.7	3.0	3.2	3.0	3.6	3.8	3.7	5.2
経済学部	8.3	7.3	8.1	7.5	5.7	5.0	9.2	20.5	100.0
経法学部							0.0	0.0	0.0
理学部	8.1	9.0	8.8	7.8	7.6	5.2	5.4	6.4	6.8
医学部	4.1	4.3	3.6	3.5	3.8	3.3	4.6	4.7	4.2
工学部	7.0	6.6	6.9	6.5	7.6	5.9	5.7	5.4	4.6
農学部	3.1	2.8	3.6	2.5	2.3	2.9	3.4	3.4	3.7
繊維学部	4.7	5.1	4.7	5.2	5.0	3.8	4.3	4.3	4.7
全体平均	6.0	6.0	5.9	5.5	5.8	4.9	5.2	5.5	5.5
文系平均	6.5	6.6	6.5	6.0	6.2	5.9	5.9	6.9	7.4
理系平均	6.1	6.1	6.2	5.8	6.2	4.8	5.0	5.0	4.9

※学部廃止によるもの

※理系は医学部を除く



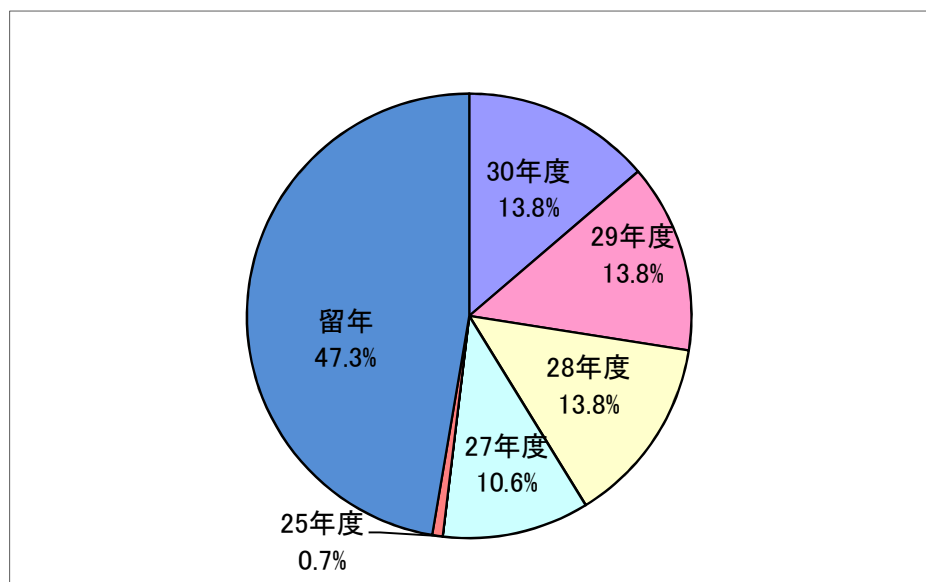
平成30年度における入学年度別退学者調

単位：人

※ 編入生は編入先の年度に含めた

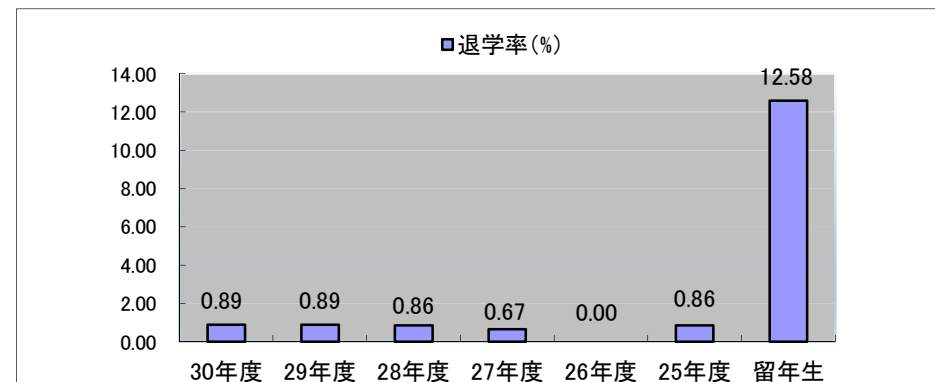
学部	入学年度			30年度			29年度			28年度			27年度			26年度			25年度			留年生			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
人文学部	1	2	3	2		2	1		1	2		2	/	/	/	/	/	/	8	5	13	14	7	21			
教育学部	1		1	1		1							/	/	/	/	/	/	2	3	5	4	3	7			
経済学部										1		1	/	/	/	/	/	/	6		6	7		7			
経法学部	1		1	1		1	1		1				/	/	/	/	/	/				3		3			
理学部	3		3	4	1	5	3	1	4	1		1	/	/	/	/	/	/	7		7	18	2	20			
医学部医学科	1		1													1		1	1		1	3		3			
医学部保健学科		2	2		1	1		1	1	1		1	/	/	/	/	/	/	1		1	2	4	6			
工学部	3	1	4	2	1	3	6		6	9		9	/	/	/	/	/	/	21	2	23	41	4	45			
農学部	1	1	2	2	2	4	1		1				/	/	/	/	/	/	1		1	5	3	8			
繊維学部		1	1	1		1	3	1	4				/	/	/	/	/	/	4	1	5	8	3	11			
計	11	7	18	13	5	18	15	3	18	14		14				1		1	51	11	62	105	26	131			

平成30年度の退学者131名の入学年度別割合調



各入学年度の在学者総数に占める退学者の割合

入学年度	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度	25年度	留年	合計
退学者数	18	18	18	14		1	62	131
在学者数	2,012	2,027	2,084	2,094	119	116	493	8,945
退学率(%)	0.89	0.89	0.86	0.67	0.00	0.86	12.58	1.46



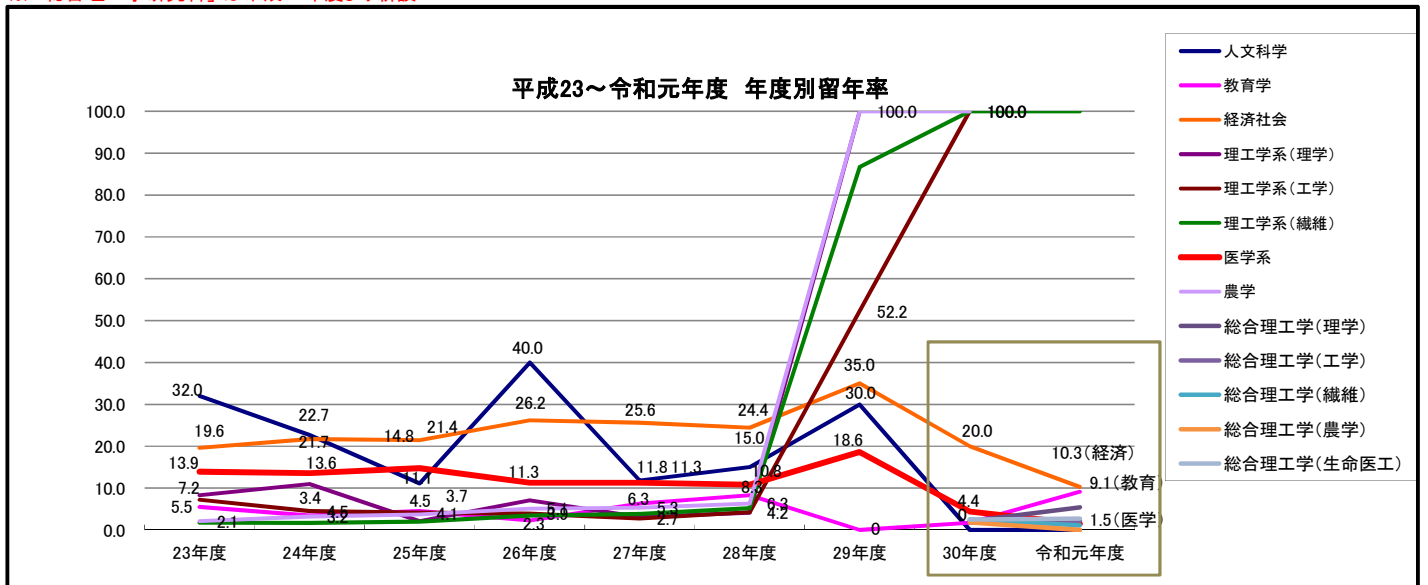
平成23～令和元年度 年度別留年率調<修士課程(博士前期)>

単位:%

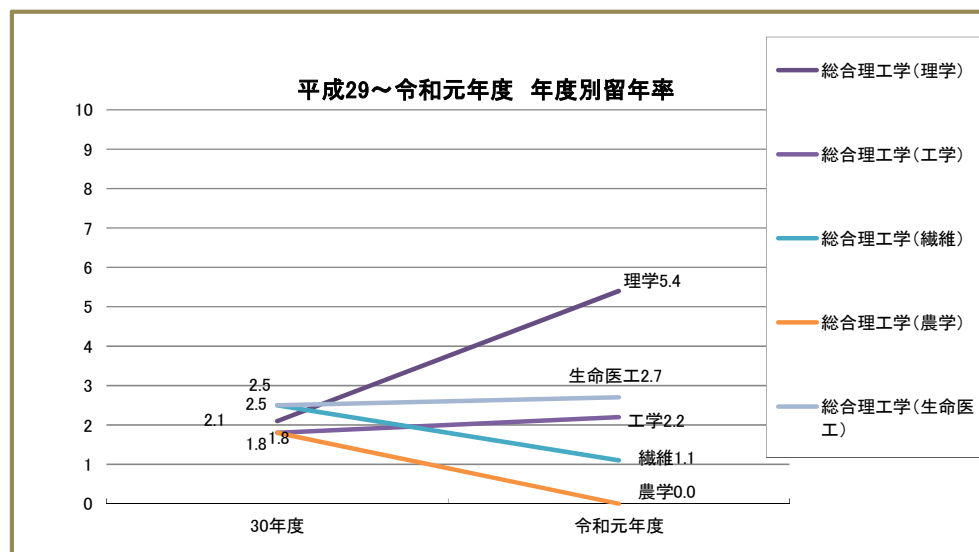
(留年率=各年度の在学生数に対する留年生数の割合)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
人文科学	32.0	22.7	11.1	40.0	11.8	15.0	30.0	0.0	0.0
教育学	5.5	3.4	4.5	2.3	6.3	8.3	0.0	1.7	9.1
経済社会	19.6	21.7	21.4	26.2	25.6	24.4	35.0	20.0	10.3
理工学系全体	5.4	4.5	3.0	4.1	3.2	4.6	68.3	100.0	100.0
理工学系(理学)	8.3	11.0	2.1	7.1	3.1	4.1	100.0		
理工学系(工学)	7.2	4.5	4.1	3.9	2.7	4.2	52.2	100.0	
理工学系(繊維)	1.7	1.7	2.0	3.4	3.8	5.2	86.7	100.0	100.0
医学系	13.9	13.6	14.8	11.3	11.3	10.8	18.6	4.4	1.5
総合理工学全体								2.1	2.0
総合理工学(理学)								2.1	5.4
総合理工学(工学)								1.8	2.2
総合理工学(繊維)								2.5	1.1
総合理工学(農学)								1.8	0.0
総合理工学(生命医工)								2.5	2.7
農学	2.1	3.2	3.7	5.1	5.3	6.3	100.0	100.0	
全体平均	6.4	5.5	4.2	5.3	4.9	3.9	4.5	3.1	2.6
文系平均	13.6	11.6	10.1	12.1	12.9	14.9	17.9	8.4	8.7
理系平均	5.5	4.8	3.6	4.5	3.9	2.8	3.3	2.6	2.1

※「総合理工学研究科」は平成28年度より新設



総合理工学研究科留年率 ↑

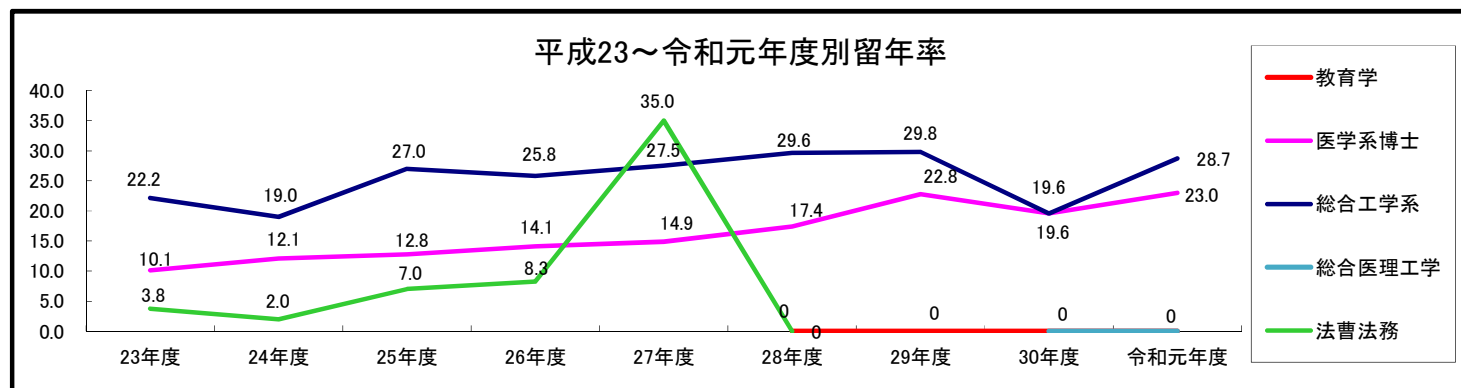


平成23～令和元年度 年度別留年率調<博士課程(博士後期)・専門職>

単位: %

(留年率=各年度の在学学生数に対する留年生数の割合)

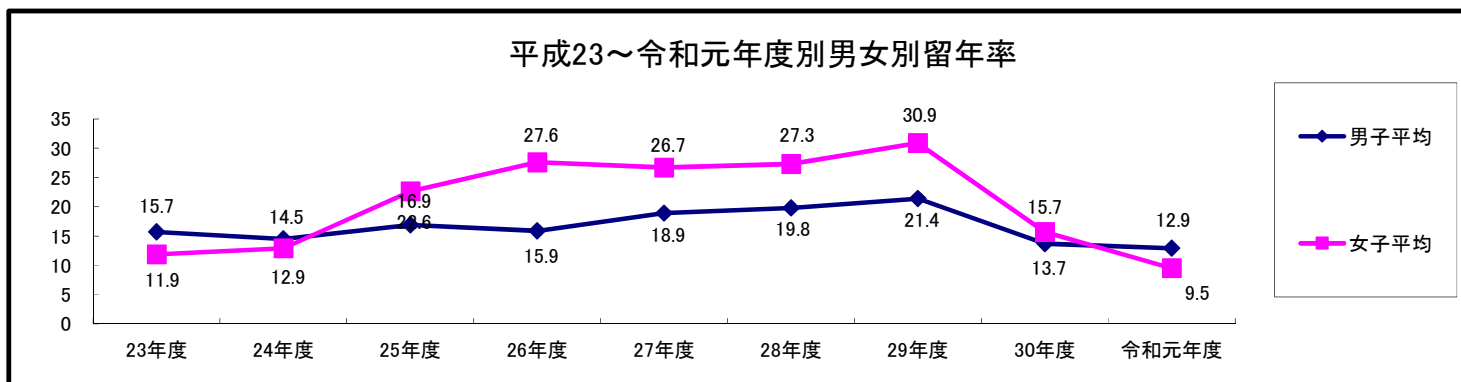
区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
教育学						0.0	0.0	0.0	0.0
医学系博士	10.1	12.1	12.8	14.1	14.9	17.4	22.8	19.6	23.0
総合工学系	22.2	19.0	27.0	25.8	27.5	29.6	29.8	19.6	28.7
総合医理工学								0.0	0.0
法曹法務	3.8	2.0	7.0	8.3	35.0	0.0			
全体平均	14.8	14.1	18.2	18.5	20.6	21.4	21.4	14.1	12.1



平成23度～31年度 年度別男女別留年率調<博士課程(博士後期)・専門職>

単位: %

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
男子平均	15.7	14.5	16.9	15.9	18.9	19.8	21.4	13.7	12.9
女子平均	11.9	12.9	22.6	27.6	26.7	27.3	30.9	15.7	9.5



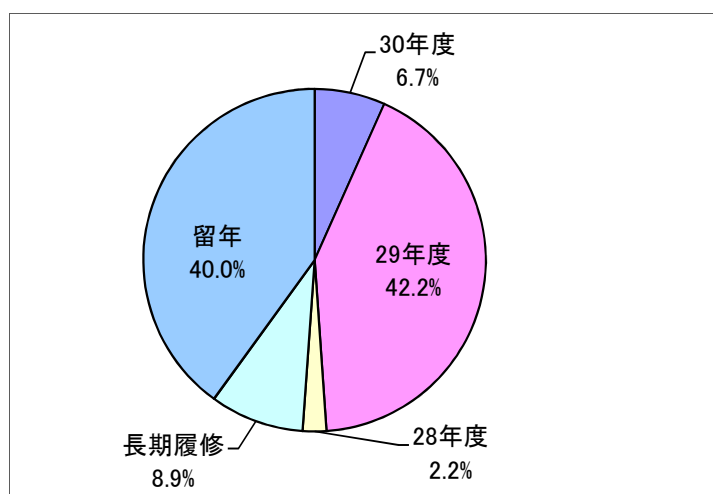
平成30年度における入学年度別休学者調<修士課程(博士前期)>(その2 簡略版)

単位:人

研究科/入学年度	30年度		29年度		28年度		長期履修生		留年生		合計	
人文科学			1		/	/	1				2	0
教育学			3	1	/	/					3	1
経済社会					1		3		3		7	0
医学系			3		/	/			2		5	0
理工学系理学	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0
理工学系工学	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0
理工学系繊維	/	/	/	/	/	/			1		1	0
総合理工学理学	1		2								3	0
総合理工学工学			5						5		10	0
総合理工学繊維	1		4						4		9	0
総合理工学農学	1		1						2		4	0
総合理工学生命医工											0	0
農学	/	/	/	/	/	/			1		1	0
計	3	0	19	1	1	0	4	0	18	0	45	1

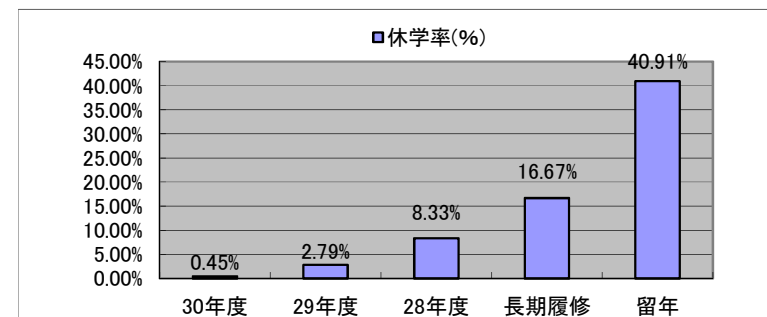
※ 各年度の右欄(太枠内)は、積極的理由群の「留学のため」で、内数を示す。

平成30年度の休学者62名の入学年度別割合調



各年度の在学者総数に占める休学者の割合

入学年度	30年度	29年度	28年度	長期履修	留年
休学者数	3	19	1	4	18
在学者数	667	681	12	24	44
休学率(%)	0.45%	2.79%	8.33%	16.67%	40.91%



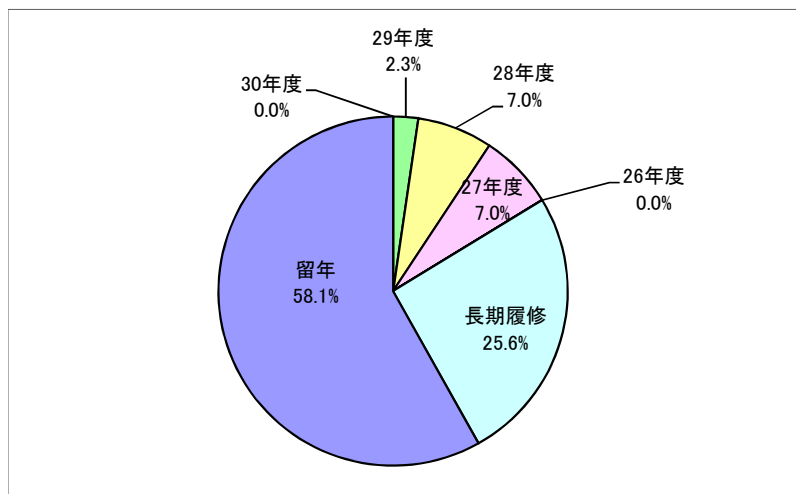
区 分	30年度	29年度	28年度	長期履修	留年	合計
入学年度別休学者調	3	19	1	4	18	45

平成30年度における入学年度別休学者調<博士課程(博士後期)・専門職>(その2 簡略版)

単位:人

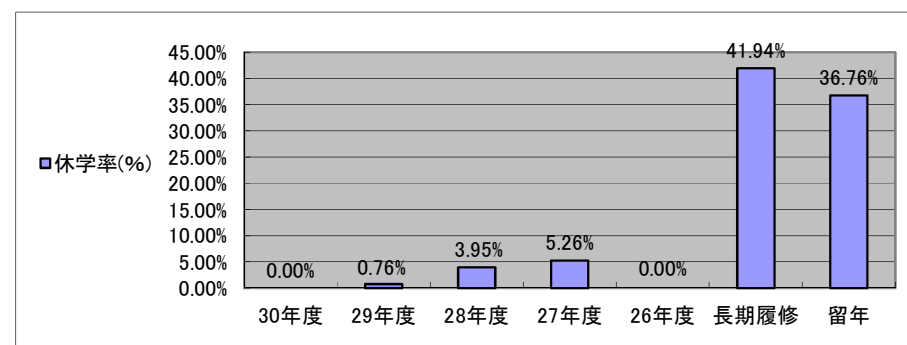
研究科/入学年度	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度	長期履修	留年生	合計
教育学研究科【専門職・2年制】								0
医学系(博士課程)				2			17	19
医学系(博士後期課程)						9		9
総合工学系 生命機能・ファイバー工学専攻		1		1		1	1	4
総合工学系 システム開発工学専攻			1			3	2	6
総合工学系 物質創成科学専攻								0
総合工学系 山岳地域環境科学専攻			2				4	6
総合工学系 生物・食料科学専攻							1	1
計	0	1	3	3	0	13	25	45

平成30年度の休学者45名の入学年度別割合調



各年度の在学者総数に占める休学者の割合

入学年度	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度	長期履修	留年	合計
休学者数	0	1	3	3	0	13	25	45
在学者数	114	132	76	57	3	31	68	481
休学率(%)	0.00%	0.76%	3.95%	5.26%	0.00%	41.94%	36.76%	9.36%



区 分	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度	長期履修	留年	合計
入学年度別休学者調	0	1	3	3	0	11	25	45

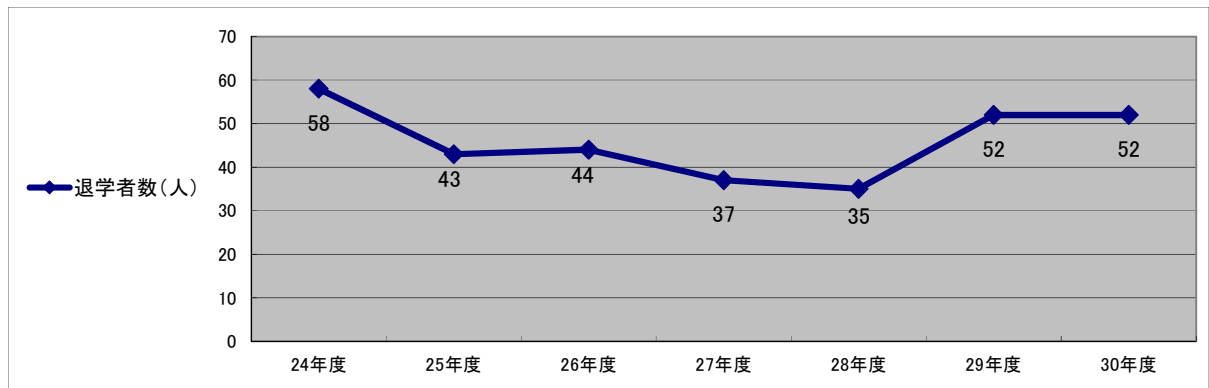
平成30年度における入学年度別退学者調<修士課程(博士前期)>

単位:人

研究科	入学年度			30年度			29年度			28年度			長期履修学生			留年生			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
人文科学			0		1	1							1	1	2			0	1	2	3
教育学		1	1			0									0			0	0	1	1
経済社会			0			0	1		1					1	1	2		2	3	1	4
医学系			0		1	1									0	2	1	3	2	2	4
理工学系全体													0	0	0	2	0	2	2	0	2
理工学系理学															0			0	0	0	0
理工学系工学															0	1		1	1	0	1
理工学系繊維															0	1		1	1	0	1
総合理工学全体	10	2	12	17	3	20	0	0	0	0	0	0	6	0	6	0	6	33	5	38	
総合理工学理学	3		3	4	1	5									0			0	7	1	8
総合理工学工学	5		5	7		7							2		2			2	14	0	14
総合理工学繊維	1	1	2	4	1	5							3		3			3	8	2	10
総合理工学農学	1	1	2	2		2							1		1			1	4	1	5
総合理工学生命医工			0		1	1									0			0	0	1	1
農学															0			0	0	0	0
計	10	3	13	17	5	22	1	0	1	1	2	3	12	1	13	41	11	52			

平成24~30年度 退学者数の変遷<修士課程(博士前期)>

区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
退学者数(人)	58	43	44	37	35	52	52



区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
退学者数(人)	58	43	44	37	35	52	52

平成30年度における入学年度別退学者調<博士課程(博士後期)・専門職>

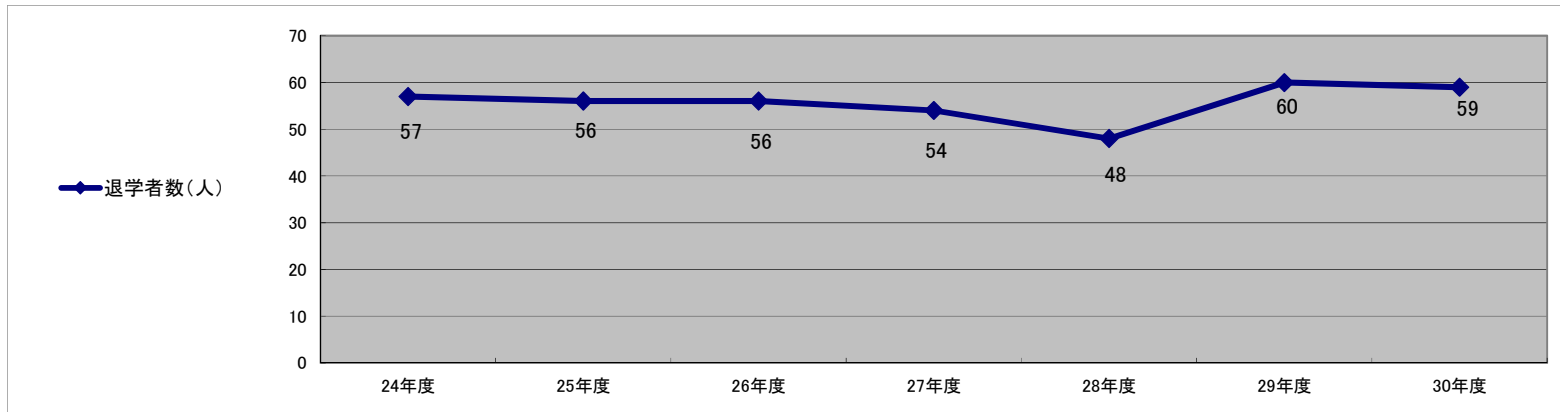
単位:人

研究科	入学年度			30年度			29年度			28年度			27年度			26年度			長期履修生			留年生			合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
教育学研究科【専門職・2年制】			0			0			0			0						0			0	0	0	0	0	0		
医学系(博士課程)			0		2	2			0	20		20			0			0	4	5	9	24	7	31				
医学系(博士後期課程)			0			0	2		2			0			/		/	1			0	3	0	3				
総合工学系 生命機能・ファイバー工学専攻			0	1		1	1		1			0			/		/		0	3	1	4	5	1	6			
総合工学系 システム開発工学専攻			0			0			0	1		1			/		/	1	1	2	2		2	4	1	5		
総合工学系 物質創成科学専攻			0		1	1	1		1			0			/		/				0	1	1	2				
総合工学系 山岳地域環境科学専攻			0	1		1			0			0			/		/		0	2	1	3	3	1	4			
総合工学系 生物・食料科学専攻			0		1	1		1	1	1		1			/		/				0	1	1	1	3	4		
総合医理工学研究科 医学系専攻(4年制)			0															0			/		/	0	0	0		
総合医理工学研究科 医学系専攻(3年制)			0															0			/		/	0	0	0		
総合医理工学研究科 総合理工学専攻(3年制)	2		2														1	1			/		/	3	0	3		
総合医理工学研究科 生命医工学専攻(4年制)	1		1															0			/		/	1	0	1		
総合医理工学研究科 生命医工学専攻(3年制)			0															0			/		/	0	0	0		
計	3	0	3	2	4	6	4	1	5	22	0	22	0	0	0	3	1	4	11	8	19	45	14	59				

※ H30年4月より医学系研究科と総合工学系研究科を「医学系専攻」、「総合理工学専攻」、「生命医工学専攻」の3専攻に統合再編「総合医理工学研究科」を設置

平成24～30年度 退学者数の変遷<博士課程(博士後期)・専門職>

区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
退学者数(人)	57	56	56	54	48	60	59



区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
退学者数(人)	57	56	56	54	48	60	59

施設利用状況（学生）

資料 5

* 人数は延人数（ ）内は%

業務内容		松本	教育	工学	農学	繊維	合計
医師	内科	168 (2.0)	14 (0.6)	21 (0.9)	15 (0.4)	16 (0.7)	234 (1.2)
	精神科	363 (4.3)	7 (0.3)	12 (0.5)	6 (0.2)	5 (0.2)	393 (2.1)
産業医	医療面談						
	産業医面談		1				1
校医	内科	41 (0.5)	32 (1.4)				73 (0.4)
	精神科	207 (2.4)			6 (0.2)	6 (0.3)	219 (1.1)
	外科						
	整形外科	1	1				2
	耳鼻科						
	眼科						
	皮膚科	4					4
	婦人科	2					2
他医への紹介		123 (1.4)	37 (1.6)	6 (0.3)	48 (1.4)	5 (0.2)	219 (1.1)
臨時健康診断		27 (0.3)					27 (0.1)
特別定期健康診断		58 (0.7)	21 (0.9)	166 (6.9)		357 (15.1)	602 (3.2)
検査	身体計測	189 (2.2)	5 (0.2)	9 (0.4)	7 (0.2)	89 (3.8)	299 (1.6)
	血圧測定	197 (2.3)	4 (0.2)	67 (2.8)	39 (1.1)	71 (3.0)	378 (2.0)
	血液・採血	46 (0.5)				224 (9.5)	270 (1.4)
	尿	300 (3.5)	140 (6.1)	159 (6.7)	78 (2.2)	332 (14.1)	1009 (5.3)
	視聴力・色覚	12 (0.1)	39 (1.7)	6 (0.3)	13 (0.4)	19 (0.8)	89 (0.5)
	心電図	26 (0.3)					26 (0.1)
処置	外傷	122 (1.4)	31 (1.4)	44 (1.8)	34 (1.0)	52 (2.2)	283 (1.5)
	打撲・捻挫	52 (0.6)	22 (1.0)	18 (0.8)	17 (0.5)	16 (0.7)	125 (0.7)
	熱傷	14 (0.2)	6 (0.3)	6 (0.3)	4 (0.1)	11 (0.5)	41 (0.2)
	咬刺症	21 (0.2)	3 (0.1)	7 (0.3)	14 (0.4)	2 (0.1)	47 (0.2)
	皮膚疾患	17 (0.2)	3 (0.1)	5 (0.2)	9 (0.3)	8 (0.3)	42 (0.2)
	その他	46 (0.5)	17 (0.7)	4 (0.2)	3 (0.1)	27 (1.1)	97 (0.5)
看護	投薬	75 (0.9)	8 (0.4)		21 (0.6)	2 (0.1)	106 (0.6)
	健康相談	1983 (23.3)	578 (25.4)	572 (23.9)	722 (20.4)	347 (14.7)	4202 (22.0)
	栄養指導	1	8 (0.4)		15 (0.4)	1	25 (0.1)
	労働衛生相談						
	健康教室	7 (0.1)					7
	カウンセリング 補助	236 (2.8)	32 (1.4)	47 (2.0)	84 (2.4)	38 (1.6)	437 (2.3)
	その他	2096 (24.7)	5 (0.2)	55 (2.3)	117 (3.3)	74 (3.1)	2347 (12.3)
カウンセリング	常勤カウンセラー	1258 (14.8)	566 (24.9)	870 (36.4)	1701 (48.1)	456 (19.3)	4851 (25.4)
	非常勤カウンセラー	93 (1.1)	71 (3.1)				164 (0.9)
自主利用	身体計測	390 (4.6)	243 (10.7)	123 (5.1)	472 (13.3)	116 (4.9)	1344 (7.1)
	血圧測定	122 (1.4)	245 (10.8)	14 (0.6)	71 (2.0)	21 (0.9)	473 (2.5)
	休養	153 (1.8)	41 (1.8)	49 (2.1)	44 (1.2)	40 (1.7)	327 (1.7)
	その他	11 (0.1)	94 (4.1)	116 (4.9)		2 (0.1)	223 (1.2)
健康診断証明書		34 (0.4)	3 (0.1)	14 (0.6)		25 (1.1)	76 (0.4)
計		8495 (100.0)	2277 (100.0)	2390 (100.0)	3540 (100.0)	2362 (100.0)	19064 (100.0)

施設利用状況（職員）

* 人数は延人数（ ）内は%

業務内容		松本	教育	工学	農学	繊維	合計
医師	内科	36 (2.1)	12 (2.6)	10 (3.0)	16 (1.7)	4 (0.7)	78 (1.9)
	精神科	41 (2.4)	17 (3.6)	1 (0.3)		6 (1.0)	65 (1.6)
産業医	医療面談	43 (2.5)	1 (0.2)	14 (4.2)	7 (0.8)	12 (2.0)	77 (1.9)
	産業医面談	71 (4.2)	33 (7.0)	2 (0.6)	20 (2.2)	21 (3.5)	147 (3.7)
校医	内科	5 (0.3)					5 (0.1)
	精神科	28 (1.6)			6 (0.7)		34 (0.8)
	外科						
	整形外科	1 (0.1)					1
	耳鼻科						
	眼科						
	皮膚科						
	婦人科						
他医への紹介		23 (1.3)	8 (1.7)		8 (0.9)		39 (1.0)
臨時健康診断		3 (0.2)					3 (0.1)
特別定期健康診断		28 (1.6)	3 (0.6)	91 (27.0)		73 (12.3)	195 (4.8)
検査	身体計測	14 (0.8)		2 (0.6)	1 (0.1)	20 (3.4)	37 (0.9)
	血圧測定	12 (0.7)	1 (0.2)	3 (0.9)	2 (0.2)	3 (0.5)	21 (0.5)
	血液・採血	24 (1.4)				18 (3.0)	42 (1.0)
	尿	8 (0.5)		3 (0.9)		16 (2.7)	27 (0.7)
	視聴力・色覚		1 (0.2)	2 (0.6)			3 (0.1)
	心電図	2 (0.1)					2
処置	外傷	24 (1.4)	7 (1.5)	10 (3.0)	9 (1.0)	11 (1.9)	61 (1.5)
	打撲・捻挫	10 (0.6)	2 (0.4)	4 (1.2)	14 (1.5)	11 (1.9)	41 (1.0)
	熱傷	2 (0.1)			1 (0.1)	1 (0.2)	4 (0.1)
	咬刺症	4 (0.2)	2 (0.4)	1 (0.3)		1 (0.2)	8 (0.2)
	皮膚疾患	1 (0.1)	1 (0.2)		3 (0.3)	5 (0.8)	10 (0.2)
	その他	10 (0.6)	9 (1.9)	4 (1.2)	1 (0.1)	14 (2.4)	38 (0.9)
看護	投薬	39 (2.3)	8 (1.7)		24 (2.6)	10 (1.7)	81 (2.0)
	健康相談	273 (16.0)	160 (34.1)	111 (32.9)	195 (21.2)	197 (33.3)	936 (23.3)
	栄養指導		1 (0.2)	2 (0.6)	6 (0.7)		9 (0.2)
	労働衛生相談	113 (6.6)		7 (2.1)	61 (6.6)		181 (4.5)
	健康教室					1 (0.2)	1
	カウンセリング補助	29 (1.7)	3 (0.6)	1 (0.3)	31 (3.4)	1 (0.2)	65 (1.6)
	その他	706 (41.3)	12 (2.6)	23 (6.8)	462 (50.3)	30 (5.1)	1233 (30.6)
カウンセリング	常勤カウンセラー			37 (11.0)	11 (1.2)	2 (0.3)	50 (1.2)
	非常勤カウンセラー	65 (3.8)					65 (1.6)
自主利用	身体計測	15 (0.9)	65 (13.9)		32 (3.5)	12 (2.0)	124 (3.1)
	血圧測定	13 (0.8)	74 (15.8)	2 (0.6)	6 (0.7)	118 (19.9)	213 (5.3)
	休養	61 (3.6)	5 (1.1)	4 (1.2)	3 (0.3)	5 (0.8)	78 (1.9)
	その他	2 (0.1)	44 (9.4)	3 (0.9)			49 (1.2)
健康診断証明書		2 (0.1)					2
計		1708 (100.0)	469 (100.0)	337 (100.0)	919 (100.0)	592 (100.0)	4025 (100.0)

令和2年5月

編集・発行 信州大学総合健康安全センター

〒390-8621

長野県松本市旭3-1-1

電話 (0263) 37-2157・3516

FAX (0263) 37-3514